京都大学
東南アジア研究センター要覧

昭和60年度版
（創立20周年）

ま　え　が　き

昭和40年４月創設された東南アジア研究センターは，本年をもって満20年を迎えることになりました。この要覧は，東南アジア研究センター創立20周年を記念して，当センターの研究活動を回顧し，現状の報告をかねて，作成されたものであります。

わが国と東南アジア諸国との関係は，近年ますます深まり，東南アジアは，日本にとってもっとも重要な地域のひとつとなりました。われわれ日本人と，東南アジアの人々の間に永続的な友好関係を打ちたてるためには，相互理解の増進が必須でありますが，その前提には，東南アジアについての正確な認識がまず存在していなければなりません。われわれは，東南アジアについての学問的認識の深化に貢献することこそ，本センターに課せられた重大な使命と考え，今後とも，重厚にして独創的な東南アジア研究の学風を創造すべく努力を重ねる所存であります。本センターに対して，一層の御教導を賜わりますよう心よりお願いを申し上げます。

昭和60年12月１日

京都大学東南アジア研究センター

所　長　石　井　米　雄

目　　次

第１章　性格と沿革…… 1

第２章　機構と組織…… 5

(1)　機　構
(2)　歴代所長
(3)　協議員
(4)　職　員
(5)　海外連絡事務所
(6)　学内研究担当教官
(7)　学外研究協力者
(8)　大学院教育

第３章　研 究 活 動……12

(1)　調査・研究
(2)　国際交流
(3)　シンポジウム・セミナー・研究集会
(4)　研究会等
(5)　東南アジアセミナー
(6)　資料収集
(7)　出　版

第４章　研究スタッフ……35

(1)　研究部門
(2)　資料部
〔付〕 旧職員名簿

第５章　出 版 目 録……56

(1)　東南アジア研究叢書（和文，英文）
(2)　研究報告書シリーズ
(3)　『東南アジア研究』特集一覧
(4)　リプリント・シリーズ
(5)　ディスカッション・ペーパー

第1章　性格と沿革

京都大学東南アジア研究センターは，東南アジアおよびその周辺諸国を総合的に研究することを目的として設立された特色ある研究機関である。東南アジアとは，ベトナム，ラオス，カンボジア，タイ，ビルマ，マレーシア，シンガポール，インドネシア，フィリピン，ブルネイの10カ国をさすが，研究の対象としては，厳密にこの範囲に限定しているわけではない。仏教の研究のためスリランカをふくめ，熱帯稲作の研究のためバングラデシュ，インドにまで手をひろげ，対外経済活動の研究のためには香港，台湾，韓国をも対象としたこともある。周辺諸国というのは，この意味である。

我々の研究方法は，欧米の「地域研究」Area Studies とくらべて，東南アジアの自然環境的諸要因の自然科学的研究をもふくむ点において，人文科学とくに人類学と政治学を中心とする欧米の研究方法とは異なる特色をもっている。この意味で我々は自らこのような研究態度を「総合的地域研究」Integrated Area Research と呼ぶことがある。さらに当センターは，上述の学際的研究方法に加えて，その研究対象の力点を近代以降の東南アジアにおき，かつ文献解釈的研究よりは現地調査を重視して，現在の生きいきとして活動し，変転している東南アジアの学問的理解に貢献することを期している。

近隣のアジア諸国とわが国との学術文化の交流が深まるにつれて，当センターが地域研究の中心として果たすべき役割への期待はいよいよ高まりつつあるが，その要請にこたえるため，当センターとしては，東南アジア諸国の学者・文化人はもちろん，東南アジア研究に関心をもつ世界の学者との不断の交流につとめている。そして同時に東南アジアに関する文献資料の収集と学問的情報の交換を行い，それらをひろく内外の学者に利用してもらえるような態勢を整備しつつある。学問研究の国際交流は，これからの日本にとって大きな課題であるが，とくに近隣の東南アジアの基礎的研究を志向している当センターは，この先達でありたい。

東南アジア研究センターが，京都大学に正式に設置されたのは，1965年のことであるが，それ以前より本学には東南アジアの文化と社会の諸問題に強い関心をもつ一群の研究者がおり，1958年の春には，早くも東南アジア研究のセミナーが非公式に発足していた。このセミナーは次第に京都大学や近隣諸大学の教官・大学院学生の関心を集め，やがて月例研究会に発展，さらに東南アジア研究の一層の推進のため，正式な研究組織をつくる必要が

感じられ始めた。このため1961年に3名の研究者よりなるチームが，6カ月にわたってアジア，ヨーロッパ，アメリカにおける東南アジア研究の機関や教育プログラムの実情を視察し，詳細な報告書を提出，この報告書に基づき，本学に東南アジア研究を推進する研究機関を設立するための準備委員会が発足した。その結果1963年1月には，本学に学内措置として「東南アジア研究センター」が設けられ，初めて学内共同利用的施設ないし研究活動の調整の場としての当センターの萌芽を見るに至った。このセンターの初代所長は，ほどなく総長に就任された奥田東農学部長であったが，次代の堀江保蔵教授をへて，やがて岩村忍教授が1964年から1968年に至る4年間所長をつとめられてセンターの基本構想が固まったと言うことができる。それがセンターの性格として上述したところに他ならない。

センターは，学内措置として創設せられた当時は，もっぱら民間からの寄付金とフォード財団からの研究奨励金を委任経理金として受け入れ，それによって多数の本学教官を東南アジア各地の現地調査に派遣した。その研究活動の中心は，タイ計画とマレーシア計画という二つの総合調査であった。それは人類学者による村落定着調査から，農学者による熱帯稲作の諸条件の研究に至るまで，極めて多岐にわたったが，常に現地に密着し，現地の研究者と共同して研究を進めるという態度を失わないように留意してきた。このため当初よりバンコクに連絡事務所を置き，政府機関・大学・研究者との交渉，連絡に当たらせてきた。これらの研究の成果は，1963年に創刊された『東南アジア研究』に次々と発表され，内外の学者の注目を浴びるに至った。

この成果に対する評価は，この研究センターが，1965年4月に国立学校設置法施行規則の改正による全国で初めての「研究センター」として，京都大学の正式の研究機関と認められた事によって確定したと言えよう。それより逐年研究部門の増加を認められ，1985年度までに11部門（客員部門2をふくむ），教授12（客員部門教授相当3をふくむ），助教授11（客員部門助教授相当1をふくむ），助手9（客員部門助手相当2をふくむ）の定員を持つ研究機関に成長した。特にこの客員部門のうち，地域研究第一（外国人客員）研究部門は，東南アジアよりの研究者をセンターの客員研究員として迎えるもので，この種の国際交流のための部門の設置は全国で最初の試みであった。

1965年正式設置が認められた時の所長は，当時人文科学研究所の岩村忍教授の兼任であり，1968年度は教育学部の相良惟一教授の兼任であったが，1969年度には東南アジア研究センターの市村真一教授に引きつがれた。この年，研究センターがそれまで管理委員会と運営委員会によって運営されて来た規約を改め，学内の付置研究所に準じる「協議員会規

程」を，また1969年度には「所長候補者選考規程」を定め，それによって初めて任期を3年とする所長が選任せられることとなった。同年度以降3年ごとに改選をして，1979年には渡部忠世教授が所長に選任せられ，1985年度からは石井米雄所長に引き継がれて今日に至っている。現在の研究センターでは，教授・助教授の人事，年々の予算の概算要求，現地調査費の配分等の重要事項の審議決定は，この協議員会によっており，その協議員はセンターの教授全員及び助教授1名のほか全学の関係学部・研究所より選任された教授もしくは助教授を所長が委嘱している。その他通常のセンターの重要事項の審議決定は「教授会」，日常の運営に関する細部の打合せは「所員会議」の相談によっている。

当センターは，創設の当初以来和英両方の研究叢書の出版を行なって，研究成果を内外に問うて来ているが，1970年以降，邦文は創文社に，英文は University of Hawaii Press に出版を依頼して公刊している。また『東南アジア研究』も内外の大学その他の研究機関と交換しているばかりでなく，財団法人アジア研究協会（理事長　奥田東）に依頼して，一般に購読してもらう道をひらいている。

1969年に「バンコク連絡事務所」の運営経費が，次いで1973年に「ジャカルタ連絡事務所」の運営経費も国の予算として認められると共に，現地調査費も国の予算で認められ，ようやく当センターの現地調査を計画的に推進する最小限の基礎が与えられるようになった。それ以来センターでは，この予算を活用して，大学内の「研究担当教官」による東南アジア研究をわずかながらも支援できるようになった。また1978年度から「非常勤講師経費」を認められ，さらに1980年度には地域研究第二（客員）研究部門が設けられた事により，「学外研究協力者」が積極的に研究参加できる機会を提供できるようになった。

1981年以来，センターの自然科学系のふたつの研究部門（生物構造並びに自然構造部門）が，本学農学研究科に新設された熱帯農学専攻の協力講座として，大学院教育にたずさわることになり，また1984年以降は新設された水文環境部門もこれに加わった。

以上の東南アジア研究センターのあゆみを要約すれば以下のようである。

1959年9月　東南アジアに関心をもつ京都大学の研究者の間で「東南アジア研究会」が組織され，月例研究会がはじまる。

1962年6月　京都大学に「東南アジア研究計画準備委員会」が設けられる。

1963年1月　準備委員会の答申に基づき，京都大学に学内措置として「東南アジア研究センター」が設置される。

1963年7月　『東南アジア研究』創刊。

1965年４月　国立学校設置法施行規則第20条の２により，「東南アジア研究センター」が官制化される。「生物構造部門」の設置。

1967年４月　「社会構造部門」の設置。「資料部」の新設。

1968年４月　「文化構造部門」の設置。

1969年４月　「自然構造部門」の設置。「バンコク連絡事務所」経費が予算化される（バンコク連絡事務所は1963年10月開所）。

1971年４月　「生活環境部門」の設置。

1971年８月　現在地の旧京都織物株式会社の跡地に移転。

1973年４月　「ジャカルタ連絡事務所」経費が予算化される（ジャカルタ連絡事務所は1970年５月開所）。

1974年４月　「人口問題部門」の設置。

1975年４月　「経済発展部門」および「外国人客員研究部門」（地域研究第一部門）の設置。

1977年２月　公開講座・第１回「東南アジアセミナー」を開催。

1978年４月　「政治環境部門」の設置。

1979年３月　新館（東棟）竣工。

1980年４月　「国内客員研究部門」（地域研究第二部門）の設置。

1980年４月　共同研究「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」発足。

1980年10月　創立15周年記念事業を行う。

1981年４月　生物構造部門と自然構造部門が，京都大学大学院農学研究科に新設された熱帯農学専攻の協力講座となる。

1983年４月　東南アジア現地語図書整備５カ年計画の初年度開始。

1984年３月　新館（東棟）増築部分竣工。

1984年４月　「水文環境部門」の設置（同時に上記協力講座に加わる）。

1985年４月　共同研究「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」発足。

第2章　機構と組織

（1）機　　構

1985年度現在，東南アジア研究センターは，11研究部門（客員研究部門2を含む）および1資料部からなり，また東南アジア地域の現地調査を円滑に行うための海外連絡事務所として，タイにバンコク連絡事務所を，インドネシアにジャカルタ連絡事務所を設置している。事務部は庶務・会計の2掛に分かれ，それぞれ業務を担当している。また，本センターの議決機関・協議機関として，協議員会，教授会，所員会議が設けられている。

以上を表示すれば次の通りである。

- 所　長
  - 研究部門
    - 人文系
      - 文化構造
      - 生活環境
    - 社会系
      - 社会構造
      - 人口問題
      - 経済発展
      - 政治環境
    - 自然系
      - 生物構造
      - 自然構造
      - 水文環境
    - 客員部門
      - 地域研究第一（外国人客員）
      - 地域研究第二（国内客員）
  - 資料部
    - 図書室
    - 編集室
    - 計算機室
  - 事務部
    - 庶　務
    - 会　計
  - バンコク連絡事務所
  - ジャカルタ連絡事務所
  - 協議員会
  - 教授会
  - 所員会議

（2） 歴代所長

奥田　東	1963年1月—1963年12月
堀江保蔵（事務取扱）	1963年12月—1964年1月
岩村　忍	1964年2月—1968年3月
相良惟一	1968年4月—1969年3月
市村真一	1969年4月—1979年3月
渡部忠世	1979年4月—1985年3月
石井米雄	1985年4月—

（3） 協議員

協議員会は，センターの運営に関する最高議決機関であり，センターの所長，全教授および助教授1名並びに関係学部・研究所より選任された教授または助教授に対しセンター所長が委嘱した協議員によって構成されている。

1985年度の協議員は次の通りである。

東南アジア研究センター協議員　（1985年10月1日現在）

文学部	教授	中久郎
法学部	教授	勝田吉太郎
理学部	教授	日高敏隆
医学部	教授	濱島義博
薬学部	教授	田端守
工学部	教授	若松貴英
農学部	教授	久馬一剛
教養部	助教授	小林恒明
人文科学研究所	教授	梅原郁
結核胸部疾患研究所	教授	佐川弥之助
経済研究所	教授	森口親司
霊長類研究所	教授	川村俊蔵
東南アジア研究センター	所長	石井米雄
同	教授	渡部忠世
同	教授	市村真一
同	教授	高谷好一
同	教授	矢野暢

同	教授	前田成文
同	教授	坪内良博
同	教授	海田能宏
同	助教授	古川久雄

（4） 職　　員

センターの職員は，（イ）研究部，（ロ）資料部（図書室，編集室，計算機室），（ハ）事務部からなる。1985年10月1日現在の職員は次の通りである。

所長　教授　石井米雄

（イ） 研究部

人文系

教授	石井米雄	東南アジア史
教授	前田成文	文化人類学
助教授	土屋健治	政治思想史
助教授	加藤剛	社会学
助手	中川敏	文化人類学
助手	桃木至朗	東南アジア史

社会系

教授	市村真一	計量経済学，経済発展論
教授	矢野暢	政治学，地域研究論
教授	坪内良博	社会学，人口学
助教授	吉原久仁夫	経済学
助教授	江崎光男	計量経済学，経済発展論
助教授	桜井由躬雄	東南アジア社会経済史
助教授	五十嵐忠孝	人類生態学
助手	片山裕	政治学

自然系

教授	渡部忠世	熱帯作物学
教授	高谷好一	自然地理学
教授	海田能宏	熱帯水文学
助教授	福井捷朗	農業生態学
助教授	古川久雄	熱帯稲作地理
助教授	田中耕司	作物学

助　手	内田晴夫	かんがい排水学

客員研究部門

地域研究第一（外国人客員）

Leonard Y. Andaya	文化人類学
Michael Arthur Aung-Thwin	宗教政治学
Aung San Suu Kyi	政治学

地域研究第二（国内客員）

教　授	口羽益生	文化人類学
助教授	二宮正司	計量経済学，地域経済論

（ロ）資料部

編集室

助教授	鈴木静夫	東南アジア現代政治史
教務補佐員	奥野有子	

図書室

助　手	北野康子	東南アジア書誌学
事務補佐員	岩本祥子	

計算機室

助　手	柴山　守	計算機工学

（ハ）事務部

事務長		事務官	渡部健吉
庶務掛	掛長	事務官	貝塚唯生
		事務官	米沢真理子
		技　官	村田慶之亮
		事務官	山本重夫
		臨時用務員	二股房子
会計掛	掛長	事務官	西村　廉
		事務官	片山　肇
		事務官	村田敏雄

事務補佐員

研究室	石井良枝		平本えり子
	早川慎子		辻　裕子
	須羽新二	編集室	ホークス・ピーター・ジョン
	近藤純子		
	平岡麻紀		清水利香
	児玉　忍	図書室	常友美江

辻　村　昭　子
福　島　弘　恵
内　山　恵美子
柘　植　ひろ子
舩　木　一　美
富　田　佐和子
スリーラット・
　　アナンタルディ
岡　村　久仁子
フェイ・水　崎

事務部　開　発　比差子
　　井　上　栄　子

バンコク連絡事務所
　　パン・カムプレオ
　　サムーチャイ・
　　クライトーンスック

ジャカルタ連絡事務所
　　スパルマン
　　アミニ
　　スカスミ

（5） 海外連絡事務所

（イ） バンコク連絡事務所

バンコク連絡事務所（現在地，3 Soi 25, Sukhumvit Road, Bangkok, Thailand, 電話258-2662）は，1963年10月に開設されて以来，5度にわたって駐在地の変更があったが，この間のべ37名が駐在の任に当たった。

歴代の連絡事務所駐在員は次の通りである。

本岡　武	1963.10～1964. 3	辻井　博	1974. 5～1974.10
飯島　茂	1964. 4～1964. 5	海田能宏	1974.10～1976.10
相良惟一	1964. 6～1964. 9	石井米雄	1976.10～1976.12
本岡　武	1964.10～1965. 1	海田能宏	1976.12～1977.10
飯島　茂	1965. 1～1965. 6	山田　勇	1977.10～1977.11
寺松　孝	1965. 7～1965. 8	矢野　暢	1977.11～1978. 1
飯島　茂	1965. 8～1965. 9	桜井由躬雄	1978. 1～1978.11
本岡　武	1965.10～1966. 3	山影　進	1978.11～1979. 4
飯島　茂	1966. 3～1966. 6	吉原久仁夫	1979. 4～1979. 7
石井米雄	1966. 6～1967. 4	水野浩一	1979. 7～1979. 9
福井捷朗	1967. 4～1969. 4	三谷恭之	1979. 9～1981. 5
海田能宏	1969. 4～1970. 1	福井捷朗	1981. 5～1982. 7
三谷恭之	1970. 2～1971. 6	吉川利治	1982. 7～1982. 9
安場保吉	1971. 6～1972. 5	吉原久仁夫	1982.10～1983. 3
福井捷朗	1972. 5～1972. 9	海田能宏	1983. 4～1984. 5
水野浩一	1972. 9～1973. 3	二宮正司	1984. 5～1985. 3
辻井　博	1973. 4～1974. 4	古川久雄	1985. 3～1985. 9
海田能宏	1974. 4～1974. 5	二宮正司	1985.10～1985.11

江　崎　光　男　　1985.12～

（ロ）　ジャカルタ連絡事務所

ジャカルタ連絡事務所（現在地，Jalan Erlangga II，No. 11, Kebayoran Baru, Jakarta, Indonesia，電話77-2397）は，1970年10月に開設されて以来，3度にわたって移転があったが，この間のべ22名が駐在の任に当たった。

歴代の連絡事務所駐在員は次の通りである。

西　原　　正	1970. 5～1972. 4	前　田　成　文	1977. 4～1979. 3
飯　田　経　夫	1972. 5～1973. 3	土　屋　健　治	1979. 3～1979. 4
西　村　博　行	1973. 5～1973.11	石　井　米　雄	1979. 4～1979. 6
矢　野　　暢	1973.11～1974. 2	古　川　久　雄	1979. 6～1979.10
坪　内　良　博	1974. 2～1974. 4	土　屋　健　治	1979.10～1980. 9
野　上　裕　生	1974. 4～1975. 3	加　藤　　剛	1980. 9～1981. 9
土　屋　健　治	1975. 4～1975. 7	江　崎　光　男	1981. 9～1982. 6
坪　内　良　博	1975. 7～1976. 6	田　中　耕　司	1982. 6～1983. 8
前　田　成　文	1976. 6～1976. 9	古　川　久　雄	1983. 8～1984. 8
山　田　　勇	1976. 9～1976.10	土　屋　健　治	1984. 8～1985. 3
小　林　和　正	1976.10～1977. 3	五十嵐　忠　孝	1985. 3～

（6）　学内研究担当教官

当センターは，東南アジア研究に関心をもつ学内各学部・研究所の教官に，研究担当教官として参加を委嘱している。

1985年度において，これらの学内研究担当教官は145名を数え，その学部・研究所等の内訳は以下の通りである。

文　学　部	1名	人文科学研究所	6名
教　育　学　部	2	結核胸部疾患研究所	2
法　学　部	5	木材研究所	7
理　学　部	5	食糧科学研究所	2
医　学　部	6	防災研究所	10
薬　学　部	5	経済研究所	2
工　学　部	13	霊長類研究所	14
農　学　部	55	体育指導センター	1
教　養　部	8	計	145
化学研究所	1		

（7） 学外研究協力者

当センターは，総合的に地域研究を実施するため，東南アジア地域の研究に関心をもつ全国各地の大学・研究機関等の研究者に，研究協力を仰いでいる。

1985年度において，これらの研究協力者は157名を数え，その専門別内訳は次の通りである。

総　　合	42名	農業経済学	10名
人 類 学	10	農　　学	9
社 会 学	8	医学・薬学	6
歴 史 学	8	地 理 学	10
言 語 学	8	理　　学	11
政 治 学	11	水 文 学	7
経 済 学	10	計	157
人 口 学	7		

（8） 大学院教育

1981年以来，センターの自然系のふたつの部門（生物構造並びに自然構造部門）が，本学農学研究科に新設された熱帯農学専攻の協力講座として，大学院教育にたずさわることになり，また1984年以降は新設された水文環境部門もこれに加わった。現在6名の教官が講義と研究指導を担当している。現在，東南アジア諸国からの留学生3名を含む7名の専攻大学院生がこれらの協力講座に属している。

第3章　研　究　活　動

（1）　調査・研究

共同研究

センターの調査・研究活動は個別研究と共同研究に大別されるが，共同研究のうち，センターの大部分のスタッフの関与するものは，センター研究計画（プロジェクト）として推進されている。1980年度から1984年度までの5カ年計画として，「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」というテーマのもとに，このセンタープロジェクトが遂行され，また1985年度から，第2次5カ年センタープロジェクトとして新たに「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」に着手した。これら共同研究は，現地調査を中心として行われること，学際的なチームメンバーを組んで行われること，東南アジア地域の外国人研究者の参加を得て行われることを特色としている。

上のような，かなり大きな規模の共同研究を実現させた基礎として，従来から蓄積してきた，かずかずの共同研究プロジェクトがある。1965年以来1980年ごろまでに遂行された共同研究のうち，比較的規模の大きいもののタイトルを掲げると次のようである。

□タイ地域研究，□マレーシア地域研究，□南スマトラの経済調査，□工業化が首都近郊農村に与える影響，□東南アジアの自然と人間，□タイ国低地土壌の生産力調査，□東南アジアの民族独立運動，□メコン・デルタの農業生態調査，□イラワジ・デルタの農業環境調査，□東マレーシアにおける潜在農業生産力調査，□インドネシア経済の投入産出分析，□気候変化が農業生産におよぼす影響，□緑の革命と農村開発，□東南アジア稲作社会におけるイスラームの役割，□東南アジアにおける人口圧力，家族周期と社会構造，□異民族支配と文化摩擦，□日本人の南方関与と文化摩擦，□経済発展と文化摩擦，□熱帯多雨気候下におけるイスラーム社会の展開過程，□世界諸地域の主食作物の生産力評価，□熱帯アジアにおけるクロッピング・システム，作物生産，食糧構造の比較研究，□ビルマ・アッサムにおける野性イネの分布と栽培イネの生態型分化，□間作，混作および輪作の諸形態，□熱帯アジアにおける水田の分類と評価，□低地開拓史，□東南アジア海域の総合研究，□熱帯島嶼域における人の移動にかかわる環境形成過程の研究，□稲作の国際比較，□日本農耕におけるオーストロネシア的要素，□アジア各国への技術移転に対する

政府の政策および制度的要因の関係，ロ東南アジアの伝統農業の文献的研究。

センターを中心に国内外の共同研究者数十人の協力を得て1980年度から開始された「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」5カ年計画は，1984年度をもって一応完結した。同研究ではA計画「熱帯モンスーン・エコシステムにおける農業の発展と地域間交渉の展開」とB計画「小型家産制国家の社会基盤と経済発展」の二つの研究班が編成された。各研究班はこれまでに報告書，研究論文，研究書の刊行，シンポジウム開催などによって研究成果を発表してきた。各研究班の研究成果とりまとめの状況は次の通りである。

[A計画]

〈東北タイ・ドンデーン村研究班〉

真に総合的な村落調査が必要とされながらも，その実施例は少ない。ドンデーン村はセンターの故水野浩一教授が20年前に単独で調査した村で，今回は20人からなる学際的な研究チームを組んでの再調査である。農村の変容を実証的に研究することもひとつの大きなねらいであった。1981年度と1983年度の2回にわたった長期定着調査は，従来実験的方法をもっぱらとする農学者グループにとっては新しい冒険であり，社会学系グループにとっては村落の全体像を真に総合的にとらえることのできる貴重な機会であった。1985年11月には東北タイのコンケン大学で日本学術振興会とタイ国家研究会議共催による「ドンデーン村シンポジウム」を開催した。

出　版：Fukui, H., Kaida, Y. and Kuchiba, M. (eds.) *An Interim Report—A Rice-growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand.* CSEAS, 1983.

Fukui, H., Kaida, Y. and Kuchiba, M. (eds.) *The Second Interim Report—A Rice-growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand.* CSEAS, 1985.

『東南アジア研究』23巻3号(1985年12月）特集《ドンデーン村》

〈熱帯島嶼域における人の移動に関わる環境形成過程研究班〉

1980年度のインドネシアにおける第1次調査，1982年度の南インド，スリランカ，インドネシアにおける第2次調査の研究成果を踏まえて，1984年度にはインドネシア・リアウ州で第3次調査（最終調査）を行った。同時に比較分析と補充調査のため，インドネシア・南スラウェシ州，ジャワ島，フィリピン，マレーシアでも調査を行なった。3次にわたる学際的な現地調査は，(1)東南アジア島嶼域における生活環境形成過程の記述と類型化という所期の目的を果たし，(2)各専門分野でも個々の研究テーマに基づく成果があったと共

に，(3)自然科学者と人文・社会科学者との共同研究のあり方，マクロ・レベルとマイクロ・レベルとの分析視点のかねあいなど地域研究の方法論の上でも着実な一歩を踏み出すことができた。

出　版：『東南アジア研究』20巻1号(1982年6月）特集《南スラウェシの村落と農業景観》
Mattulada and Maeda, N. (eds.) *Villages and the Agricultural Landscape in South Sulawesi.* CSEAS, 1982.
Jayawardena, S. D. G. and Maeda, N. (eds.) *Transformation of the Agricultural Landscape in Sri Lanka and South India.* CSEAS, 1984.
Maeda, N. and Mattulada (eds.) *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia.* CSEAS, 1984.
『東南アジア研究』22巻2号（1984年9月）特集《*Transformation of the Agricultural Landscape*》

[B計画]

〈小型家産制国家研究班〉

研究班の課題は，東南アジアを東南アジアたらしめているものがあるのか，あるとすれば，この地域を一個の独自な東南アジア世界として成立させている要件，ことに〈国家〉編成の原理は何かを明らかにすることであった。

この課題にこたえるため，先ず第一にこの地域のユニットに関する考察から始めた。その成果はシンポジウム「東南アジアの〈まち〉と〈むら〉」においてユニット概念の再検討として提示され，後に，『東南アジア研究』21巻1号（1983年6月）の特集「東南アジアにおける〈都市〉の諸様相」で公表された。ユニットをどのように定位するのかというこの課題は，第二にユニット間のネットワーク形成にかかわるダイナミズムとそれを保証するパラダイムの検討を要請する。シンポジウム「〈東南アジア的なるもの〉をめぐって」はそのこころみであり，成果は「〈特集〉東南アジアの世界像」『東南アジア研究』22巻1号（1984年6月）で公表された。

現代の東南アジアにおける第一義的なユニットが国境線によって定義された国民国家であることはいうまでもない。したがって第三にこの国家を相対化する方法を，東南アジアの国家編成の特性を歴史的に考究することによって構築することが課題となる。このため1983年度に現地調査を行い，その成果を Tsuchiya, K. (ed.) "*State*" *in Southeast Asia*: *From* "*Tradition*" *to* "*Modernity*". CSEAS, 1984 として発表した。併せてシンポジウム「東南アジアの〈国家〉」を開催して問題をひろく世界大の比較の視野でとらえた。視野の拡大を通して〈東南アジア世界の形〉を究めるこころみは，1985年5月に開催したシンポジウム

「〈近代化〉とは何か」にもひきつがれた。

〈経済発展の東南アジア的特性研究班〉

東南アジア諸国の発展の原因と特性を二つの観点より究明するため，(1)日本の直接投資の果たした役割を，とくに経営方式と労使関係についてサーベイ方法により調査，これの解釈および分析を行う研究と，(2)アジア諸国の発展を日本および米国との間，さらにアジア諸国相互間の依存関係の中でとらえるリンク・モデルを構築し，計量分析を行なった。

出　版：市村真一編著『日系合併企業の経営と労使関係』関西経済研究センター資料(1983年9月)
『東南アジア研究』22巻4号（1985年3月）および23巻1号（1985年6月）特集《*Japanese Management in Southeast Asia*》
『東南アジア研究』18巻1号（1980年6月），同21巻2号（1983年9月）および同22巻3号（1984年12月）の各号に論文計4編。
Ichimura, S. and Ezaki, M. (eds.) *Econometric Models of Asian LINK*. Springer-Verlag, Tokyo, Berlin, Heidelberg, New York, 1985.

新しい共同研究計画

1985年度より，センターは新たな共同研究5カ年計画を発足させようと，具体的な調査・研究計画の細部をつめる作業を開始した。これは，総合テーマを「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」とし，4つのクラスターから成り立っている。すなわち，クラスターA「外文明と内世界」，クラスターB「文明と国家形成」，クラスターC「文明と生態環境」，クラスターD「文明と経済環境」である。

個別研究

現在のセンターのスタッフによる個別研究については第4章「研究スタッフ」の紹介の項をご参照願いたい。

学内研究担当教官等による現地調査

センターには学内研究担当教官等のための現地調査費が文部省の予算措置として認められているが，近年は予算額が限られているために多くの調査計画のうちごく一部が実現されているにすぎない。過去5年間の実績は以下のとおりである。ただし，上に述べた共同研究に参加した研究担当教官，学外研究協力者などはここに含んでいない。

年度	氏　名	所　属	調　査　国	調　査　内　容
1980	今井敏行	農学部	タイ	農村集落と土地利用の構成
	西山　孝	工学部	インドネシア	鉱産資源

	川島良治	農学部	タイ，インドネシア，フィリピン他	在来牛および水牛の飼養，管理ならびに飼料生産の実態
1981	竹内篤雄	防災研究所	インドネシア	山地災害に関する地下水と粘土の諸性質
1982	森口親司	経済研究所	フィリピン，タイ，マレーシア，インドネシア他	マクロ経済計量モデル
1983	上田伸一	薬学部	マレーシア，シンガポール，インドネシア，タイ，フィリピン	細胞培養のための材料ならびに植物化学研究の現状
1984	巽　和夫	工学部	タイ，ビルマ，インドネシア，シンガポール他	住宅事情，住宅問題および住宅政策

（2） 国際交流

センターにおける研究活動の推進とその寄与を深めるため，種々の形で外国の研究者，専門家との交流にも力が注がれている。

外国人研究者の招聘

1975年度より客員研究員の制度をセンターに設け，主として東南アジア諸国の研究者を招聘し，滞在中センター研究スタッフの一員として共同研究あるいは意見の交換を行なっている。そのほかにも随時，外国人研究者の訪問，滞在を受け入れ便宜を計っている。以下は1963—1985年度の間に一定期間センターにおいて研究を行なった外国人研究者のリストである。

A. 外国人客員研究員

Gerard Diffloth	1976—77	モン・クメール比較言語学	University of Chicago（米国）
Likhit Dhiravegin	1976	タイ国および日本の近代化	Thammasat University（タイ）
Sorasith Vacharotayan	1976	熱帯土壌の生産力	Kasetsart University（タイ）
Edita A. Tan	1977	アジアの金融市場	University of the Philippines（フィリピン）
Charnvit Kasetsiri	1977—78	東南アジア史	Thammasat University（タイ）
Kyaw Soe	1977—78	ビルマ産の植物	Moulmein College（ビルマ）
Narong Thiramongkol	1978—79	地形発達史	Chulalongkorn University(タイ)
Hadiarto Mangunnegoro	1978	病理生理学・肺機能の研究	Persahabatan Hospital, Jakarta（インドネシア）
Kusnadi	1978—79	結核制御に関する研究	Indonesia 結核協会（インドネシア）
Thak Chaloemtiarana	1978—79	タイ王国現代政治史	Thammasat University（タイ）
Leslie España Bauzon	1979—80	東南アジア近世史	University of the Philippines（フィリピン）

Boonyawart Lumpaopong	1979	土壌肥沃度に関する研究	Chiang Mai University（タイ）
Mattulada	1979—80	社会文化人類学に関する研究	Hasanuddin University（インドネシア）
張鐔 (Chan Tan)	1979—80	気象学	北京大学（中国）
丘立本 (Qiu Li Ben)	1980	東南アジア史	中国社会科学院（中国）
Sajogyo	1980	農村社会学	Bogor Agricultural Universtiy（インドネシア）
R. A. L. H. Gunawardana	1980—81	アジア農業社会経済史	University of Peradeniya（スリランカ）
唐長孺 (Tan Chan Luu)	1980—81	東南アジアと中国の生活文化の交流に関する研究	武漢大学（中国）
Adrian Bernard Lapian	1981	東南アジア海洋史	LEKNAS（インドネシア）
Narong Thiramongkol	1981—82	土壌分化に関する研究	Chulalongkorn University(タイ)
Hermenegildo Gines	1982	水田多毛作に関する研究	The International Rice Research Institute(フィリピン)
Andi Zainal Abidin Farid	1982	南スラウェシの王国の成立過程に関する研究	Hasanuddin University（インドネシア）
田汝康 (Tien Yu Kang)	1982	東南アジア華僑史	復旦大学（中国）
Nidhi Aeusrivongse	1982—83	東南アジア近代史	Chiang Mai University（タイ）
Than Tun	1982—83	ビルマのパガン朝以降の国家成立過程の研究	Mandalay University（ビルマ）
Kanha Bunpromma	1982—83	東北タイにおける畑作物の栽培に関する研究	Khon Kaen University（タイ）
Vanpen Surarerks	1982—83	灌漑組織に関する北タイと東南アジア他地域との比較	Chiang Mai University（タイ）
Altaf Ali, A. H. M.	1983—84	東南アジアの稲作	National Planning Commission（バングラデシュ）
Vũ Huy Phúc	1983	ベトナム社会経済史	Vietnam Academy of Social Sciences（ベトナム）
Lim Chong-Yah	1983	シンガポールの経済発展	Singapore University（シンガポール）
Prasert Yamklinfung	1983—84	タイ東北部農村における社会変動	Chulalongkorn University(タイ)
Sukanya Nitungkorn	1984—85	教育の経済効果に関する日本とタイの比較	Thammasat University（タイ）
Jitti Pinthong	1984—85	北タイの土地利用と農業開発	Chiang Mai Universtity（タイ）
Jonker Leonhard Tamba	1984—85	インドネシアにおける経済計画と地域開発	BAPPENAS（インドネシア）

Leonard Yuzon Andaya	1985—86	スラウェシのブギス人社会に関する歴史人類学的研究	University of Auckland（オーストラリア）
Michael Arthur Aung-Thwin	1985—86	ビルマの仏教サンガと王権	Elmila University（ビルマ）
Aung San Suu Kyi	1985—86	ビルマの現代政治史と日本の関わり	Oxford University（ビルマ）

B. その他の外国人学者

J. H. Badgley	1964—65	東南アジアにおける国際政治	Johns Hopkins School of Advanced International Studies（米国）
D. A. Wilson	1968	タイ国の政治	University of California, Los Angeles（米国）
J. E. Bardach	1968	インドネシアの漁業，メコン開発問題	University of Michigan（米国）
J. S. Stargardt	1970	東南アジア史	Victorian Research Institute（オーストラリア）
Thee Kian Wie	1972	南スマトラの社会経済調査	LEKNAS（インドネシア）
J. L. Tamba	1972—74	地域開発計画	Sriwidjaja University（インドネシア）
Thomas B. Wiens	1974	アジアの経済発展	University of Oregon（米国）
Mikhail Nosov	1975	日本のアジア政策	Institute of World Economy and International Relations（ソ連）
Bernard K. Gordon	1977—78	東アジア・太平洋地域の国際政治	University of New Hampshire（米国）
J. L. Tamba	1978—79	インドネシアの社会発展の研究	LEKNAS（インドネシア）
Vladimir G. Leschke	1978	東南アジアにおける国際関係	Institute of World Economy and International Relations（ソ連）
Varunee Thiramongkol	1978—79	地形発達史学	Chulalongkorn University（タイ）
Wilhelm Krelle	1979	西ドイツと日本及びアジア諸国との貿易の計量分析	Universität Bonn（西ドイツ）
Chatthip Nartsupha	1979	タイ経済史研究	Chulalongkorn University（タイ）
Götz Uebe	1979	日本経済の成長パターンの国際比較-とくに日本，ドイツの比較	Technische Universität München（西ドイツ）
Kittipongse Sumipan	1979—80	日本の小規模農業開発のための金融制度	NRC（タイ）
Lee Jay Cho	1980	東南アジア人口の長期動向に関する研究	East-West Center（米国）

Sajogyo	1980	インドネシアの農村開発に関する社会学的研究	Bogor Agricultural University（インドネシア）
Pudjiwati Sajogyo	1980	農村社会における女性の役割に関する研究	Bogor Agricultural University（インドネシア）
Martin Bronfenbrenner	1980	東南アジアにおける所得分配に関する研究	Duke University（米国）
Ruth T. McVey	1980	インドネシアとタイの歴史に関する研究	SOAS, University of London（英国）
Soetrisno Prawirohardjono	1982—83	地方財政の基礎理論	Gadja Mada University（インドネシア）
Aris Poniman Kertopermono	1984	リモートセンシングによるココヤシ地区の評価についての研究	National Coordination Agency for Surveys and Mapping（インドネシア）
Danny Atapattu	1984—85	金融市場の発展に関するスリランカ，東南アジア，日本の比較研究	Rufuna University（スリランカ）
Haji Muhammad bin Abdul Biang	1984	現代マレー文学の趨勢	Sabah Foundation（マレーシア）
許三守 (Hur Sam Soo)	1984	東南アジアおよび東アジアにおける人口・資源政策	East-West Center（大韓民国）
Barbara J. W. Andaya	1985—86	スマトラ東南部地方の社会・経済変化	University of Auckland（オーストラリア）
Mark Robert Peattie	1985—86	近代日本の東南アジアとの関わり	University of Massachusetts（米国）
Aroonrut Wichiekeeo	1985	ランナータイ伝統法の研究	Chiang Mai Teacher's College（タイ）
Chusri Manipluksa	1985—86	経済発達史-1868～1911年間におけるタイ-日本間比較研究	Thammasat University（タイ）

留学生の派遣と受け入れ

センターは東南アジア研究を志す研究者の養成と国際交流の目的で，センターの若手研究者，京都大学の大学院生，およびその他の学生，若手研究者を欧米と東南アジアに留学生として派遣し，あるいは留学の便宜をはかってきた。

また，東南アジア諸国の学生をセンターの研修員として受け入れ，その指導に当たった。受け入れた外国人研究生（研修員）は次の通りである。

Pav Saroeurung	1969—70	東南アジア近代史（インドシナ半島を中心として）（カンボジア）
金　炯萬	1971—72	東南アジアにおける都市化の問題（韓国）

David Brian Iwaasa（岩浅）	1973—74	経済発展論　国費外国人留学生（カナダ）
陳　朝陽	1974—75	東南アジアにおける華僑の経済活動について（台湾）
George L. Hicks	1974—75	東南アジア経済の発展に関する研究（オーストラリア）
侯　家國	1974—75	中共の社会主義建設調整時期における経済政策（台湾）
Thomas B. Wiens	1974	中国の経済と農村問題 (U.S.A.)
Pennila Anada	1976—77	日本とスリランカの仏教比較研究　国費外国人留学生（スリランカ）
Heru Santosa	1976—77	インドネシアの地域開発計画に関する研究　国費外国人留学生（インドネシア）
Wilhelmina Cruz Mañalac	1981—82	計量経済学に関する研究　国費外国人留学生（フィリピン）
Abu Talib bin Ahamad	1981—82	1942—1945年の日本のビルマ占領期の研究(マレーシア)
Jayawardena, S. D. G.	1981—82	スリランカのウェットゾーンにおける水稲作の問題点と潜在的生産力（スリランカ）
金　正	1982—83	日本と韓国の東南アジア貿易について（大韓民国）
Sabiham Supiandi	1983—	熱帯低湿地の土壌に関する研究　国費外国人留学生（インドネシア）
Wongsomsak Sompob	1983—	東南アジアの地形発達史に関する研究　国費外国人留学生（タイ）
Massardi, Y. A. N.	1983	インドネシア現代政治文化論—二重言語状況との関連で—（インドネシア）
Chaiwat Khamchoo	1983	ベトナム戦争後の日本と東南アジアとの関係（タイ）
Sheri Lynn Hoptman	1984—85	日本と東南アジアとの政治関係（米国）
Somboon Jarupongsakul	1984—	熱帯低地に関する研究　国費外国人留学生（タイ）
Ceppie Sumadilaga	1984	コンピュータ・プログラミング（インドネシア）
季　鏞淵	1985—86	日本・韓国・東南アジアの経済的相互依存関係の分析（大韓民国）
Lei Lei Aung	1985—	ビルマ古代史（ビルマ）
Aye Chan	1985—	ビルマ近代史（ビルマ）

外国研究機関への派遣

1968—1985年度の間に，次のセンター所員が外国の大学・研究機関に在籍して研究を行なった。

坪内　良博	1968—69	発展途上国の人口問題	Princeton University（米国）
山田　　勇	1968—70	熱帯森林生態学	Lembaga Biologi Nasional（インドネシア）
吉原久仁夫	1969	日本の経済発展	University of Michigan（米国）
吉原久仁夫	1970—71	東南アジアの経済発展	University of the Philippines（フィリピン）
高谷　好一	1971	デルタの第四期学的研究	University of Texas（米国）

安場　保吉	1971—72	東南アジア経済	Thammasat University, Chulalongkorn University（タイ）
海田　能宏	1971—72	水資源工学	University of California, Riverside（米国）
吉原久仁夫	1973—74	東南アジアの経済発展	University of Singapore（シンガポール）
辻井　博	1973—74	タイの農業経済発展	Chulalongkorn University, Kasetsart University（タイ）
石井　米雄	1973—75	上座部仏教サンガの比較	SOAS, University of London（英国）
海田　能宏	1974—77	水資源計画	Mekong Secretariat, ESCAP（タイ）
安場　保吉	1975	経済史	Australian National University（オーストラリア）
福井　捷朗	1975—76	水田の分類	Agricultural University Wageningen（オランダ）
江崎　光男	1975—76	フィリピン経済発展	University of the Philippines（フィリピン）
土屋　健治	1975—77	インドネシア民族主義運動	Leidse Universiteit, Leiden（オランダ）
吉原久仁夫	1976—77	日本と東南アジアの経済発展	Stanford University（米国）
山影　進	1978—79	ASEAN に関する研究	University of Malaya（マレーシア）
江崎　光男	1978—79	ESCAP 地域の経済問題の数量的分析研究	ESCAP（タイ）
坪内　良博	1979—80	発展途上国の人口に関する研究	The Population Studies Center of the University of Michigan（米国）
土屋　健治	1979—80	インドネシア近代史	University of Indonesia（インドネシア）
市村　真一	1980	計量経済学に関する研究	Institut für Gesellschafts-und Wirtschafswissenschaften der Universität Bonn（西ドイツ）
松下敬一郎	1980—81	人口の経済学的研究	The Population Studies Center of the University of Michigan（米国）
小林　和正	1980	世界出産力調査	East-West Population Institute（米国）
吉原久仁夫	1981—82	アジアの経済発展	University of the Philippines（フィリピン）
安田　聖	1982—83	日本，米国および東南アジア各国経済計量モデルのリンク	University of Pennsylvania（米国）
土屋　健治	1982	インドネシアの〈政治と文化〉に関する研究	Cornell University（米国）
松下敬一郎	1983—84	人口の経済学的研究	The Population Studies Center of the University of Michigan（米国）
高山　晟	1983—84	経済発展の研究	Southern Illinois University（米国）
加藤　剛	1983—84	東南アジアの都市化と人口移動	East-West Population Institute（米国）

片山　裕	1985—86	現代フィリピンの政治統合とテクノクラートの役割	University of the Philippines（フィリピン）
渡部　忠世	1985	東南アジア及び日本における稲作の研究	East-West Population Institute（米国）
市村　真一	1985	日本とアセアン諸国との経済関係	National University of Singapore（シンガポール）

（3） シンポジウム・セミナー・研究集会

東南アジア研究に関して内外の研究者とより広く意見を交換するため，これまでに数多くのシンポジウム，セミナー，ワークショップ，研究集会などが，センターの主催または他機関との共催で開かれた。1980年度までに開かれたものについては，メインテーマを記すにとどめ，1981年度以降最近の5年間に開催されたものについては，簡単な趣旨とプログラムを掲げておく。

1. マラヤ稲作シンポジウム（1964年9月）
2. 東南アジアにおける日本の将来（1965年6月）
3. 東南アジアにおける水資源利用（1965年9月）
4. 東南アジア医学シンポジウム（1966年10月）
5. 東南アジア農業技術シンポジウム（1967年6月）
6. 東南アジアの経済発展（1972年10月）
7. 出生推移に関するシンポジウム（1975年12月）
8. 東南アジアの社会経済変動—クリフォード・ギャーツの所説をめぐって(1978年12月)
9. 第2回熱帯農業京都セミナー（1979年2月）
10. アジア・サブリンク・プロジェクト・シンポジウム（1979年3月）
11. 東南アジアデルタ開拓史（1979年3月）
12. 江南デルタの水利と水利共同体（1979年3月）
13. 江南デルタ開拓史（1979年7月）
14. 華南の農業と共同体（1979年11月）
15. ガンジス流域の稲作農村（1980年2月）
16. FAO：土地評価の枠組（1980年2月）
17. 第1回アジアにおける南北問題（1980年3月）
18. ガンジス流域の古典村落と農業（1980年5月）

19. マラッカ海峡をめぐる政治権力と商業の諸形態（1980年7月）

20. アジア人口セミナー（1981年3月）

21. 水田分類ワークショップ（1981年5月11—15日）

このワークショップには，フィリピンの国際稲研究所，タイ国のチェンマイ大学，チュラロンコン大学，土地開発局から5人の共同研究者を招き，彼らとセンターの農学系研究者とが共同で実施した，中部ルソン平野，タイのチャオプラヤーデルタおよびチェンマイ盆地の水田分類に関する研究の報告書を検討した。

「中部ルソン平野」　福井　捷朗，海田　能宏
「チャオプラヤーデルタ」　高谷　好一，Narong Thiramongkol
「チェンマイ・ラムプーン盆地」Jitti Pinthong, Boonyawart Lumpaopong，海田　能宏
現地調査（琵琶湖沿岸愛知川流域等）

22. 東南アジア糖業シンポジウム（1981年11月10—11日）

このシンポジウムは，糖業問題の専門家を集めて，ジャワなどの砂糖のモノカルチャー生産から集荷販売にいたるまでを一貫して学問的に整理分析しようと試みたものである。

「問題提起」　高谷　好一
「糖業の作物学的基礎」（神戸大）佐藤　孝
「ジャワ・エステートにおける糖業」（東京大）加納　啓良
「第一次大戦直後のジャワ糖業」（神戸大）深見　純生
「糖業プランテーションとジャワ社会」（文学部）植村　泰夫
「フィリピン・ネグロス島糖業地帯形成史」（名古屋商大）永野　善子

23. 東南アジアの〈まち〉と〈むら〉（1981年12月5—6日）

このシンポジウムは，東南アジアの〈まち〉の成立とその機能，〈まち〉と〈むら〉との相互関係を各専門分野の視点から追究しようとするもので，センターの5カ年共同研究計画のひとつである「小型家産制国家の社会基盤と経済発展」の研究の一環として開催された。後に続く一連のシンポジウムの第1回目となった。

「シンポジウムの趣旨説明」　矢野　暢
第1セッション
「都鄙関係をめぐる試論」　坪内　良博
「国家をめぐる試論(1)」　矢野　暢
「国家をめぐる試論(2)」　土屋　健治
第2セッション
「東南アジアのヒンドゥー都市」　石井　米雄
「〈ナコーン〉〈ムアン〉とはなにか」（大阪外大）吉川　利治
「マンダレーについて」（大阪外大）大野　徹
「ベトナムの〈まち〉と〈むら〉」（大阪外大）白石　昌也
第3セッション
「西ジャワの〈まち〉と〈むら〉」（上智大）村井　吉敬
「バンドゥンについて」（大阪外大）松尾　大

「中部ジャワの〈まち〉と〈むら〉」
（一橋大）関本　照夫

「植民都市バタビアの性格」
（ライデン大学）レオナルド・ブリュッセ

24. 雲南の自然と農業（1982年1月22—23日）

東アジアの農耕文明発祥の地として，また東南アジア大陸部の民族文化の形成に深くかかわる地域として近年注目されるようになってきた中国西南部雲南省の自然と農業について，気候，地質，植物，生態，農学者らが，現地調査に基づく知見を整理した。

「雲南の気候」　安成　哲三
「雲南の地形・地質——雲南の地震と活断層——」（京大防災研）尾池　和夫
「雲南の植物(1)」
（進化生物学研究所）前川　文夫
「雲南の植物(2)」（京大理学部）小山　博滋
「雲南の食用植物と農業」
（進化生物学研究所）湯浅　浩史
「雲南のイネ（資料紹介）」　渡部　忠世

25. ジャワのデサ共同体をめぐって（1982年2月7日）

ジャワのデサ共同体は，ベトナムとならんで東南アジアでは特異でタイトな村落共同体を形成しているが，それは古い伝統に根ざすものか，あるいは植民地下における賦役貢納政策の結果生じたものかを究明しようとした。

「問題提起」　桜井由躬雄
「デサ論再考のために——現状分析からの視点」（東京大）加納　啓良
「19世紀中葉のデサ共同体の基本的性格とその変化」（名古屋市大）内藤　能房
「19世紀のデサ共同体について」
（京都大）植村　泰夫
「西スマトラとジャワの村落比較論」
（名古屋商大）大木　昌

26. 〈東南アジア的なるもの〉をめぐって（1982年3月12—13日）

このシンポジウムは，前年の「東南アジアの〈まち〉と〈むら〉」シンポジウムを引き継ぐもので，東南アジアには世界の他の地域と異なる〈東南アジア的〉なものがあるのかどうかということに焦点が絞られた。〈東南アジア的〉なるものの抽出作業は，政治的生態空間論を基礎とし，象徴論，時間論，言語，意味論など文化科学的なアプローチが試みられた。また，〈東南アジア的〉なるものに迫る手段として，「見えるもの」，「見えないもの」，「聞こえるもの」，「聞こえないもの」，「形のあるもの」，「形のないもの」などが鋭く追究された。このため，音楽，建築，言語などこの種のシンポジウムの常識を超えた分野の専門家が発表に加わった。

「シンポジウムの趣旨説明」　矢野　暢
第1セッション
「問題提起」　土屋　健治
「総論1」　坪内　良博
「総論2」　矢野　暢
第2セッション　象徴論

「象徴と社会」　（大阪大）梶原　景昭
「空間象徴としての建築様式」
（明石工専）野口　英雄
「アジア音楽の意味性」
（京都芸大）広瀬　量平
第3セッション　言語と意味
「東南アジア世界の意味性」
（国立民博）岩田　慶治
「二重言語」　（同志社大）幸節みゆき
「ベトナム社会主義言語」
（大阪外大）白石　昌也
第4セッション　歴史認識の枠組
「ジャワ年代記の歴史哲学」
（都立足立東高校）宮坂　正昭
「ビルマ王朝年代記の歴史哲学」
（大阪外大）大野　徹
「タイ王朝年代記の歴史哲学」　石井　米雄
第5セッション　アイデンティティの構造
「スンダ世界のアイデンティティ」
（上智大）村井　吉敬
「ミナンカバウの社会と個人」　加藤　剛
「インドネシアとは何か」　土屋　健治

27. アジア栽培稲の生態型分化セミナー（1982年6月18―19日）

アジア栽培稲の起源地としてインドシナ大陸の内陸部を想定する渡部忠世の雲南・アッサム起源説は，熱帯低湿地を起源地としてきた従来の考え方に新視角を提出するものであったが，このセミナーは，現存栽培稲の生態型分化と適応能力という生物学的側面から，さらに起源と伝播の問題に迫ろうとするものであった。

「アジア栽培稲の系統発生的分化」
（国立遺伝学研究所）森島　啓子
「アジア栽培稲の品種群と地理的分布」
（農水省北陸農業試験場）中川原捷洋
「アジア栽培稲の生態型と環境反応」
（東北大農学研究所）高橋　成人

28. 「タイ国村落構造の動態的研究」ワークショップ（1983年3月25―26日）

このワークショップは，5カ年共同研究計画のひとつ「タイ国村落構造の動態的研究―20年間の追跡調査」（通称，ドンデーン村プロジェクト）の研究班の作成した英文中間報告書に基づき，今後のドンデーン村調査の分析視点と第2次現地調査計画などについて，内外の関連分野の専門家の助言と示唆を得ることを目的として開かれた。

〔調査の概要〕　座長　坪内　良博
「調査の目的と経過」　石井　米雄
「農学にとっての定着調査」　福井　捷朗
「村の位置づけと水野調査」　口羽　益生
「調査内容」
（イ）農学班　海田能宏
（ロ）社会班　口羽益生
（ハ）生活班　野間晴雄
〔分析の視点と方法（その1）〕
座長　友杉　孝
「分析と総合の方針」　福井　捷朗
〔分析の視点と方法（その2）〕
座長　西村　博行
〔1983年調査への提言〕　座長　田辺　繁治

29. シップソンチュータイ（タイバックタイ族）をめぐって（1983年10月28—29日，1984年1月21—22日）

現代のインドシナ半島部のタイ族文化を理解するための基礎として，南中国などに分布するシップソンチュータイに関する知見を総合しようと，標記の集会が2度にわたって開かれた。

シップソンチュータイ（タイバックタイ族）をめぐって(1)（1983年10月28—29日）

「問題提起」　桜井由躬雄
「タイ世界のムアングについて」　石井　米雄
「タイ社会のバーンについて」
（大阪外大）赤木　攻
「ムアングの政治体系について」
（大阪外大）吉川　利治
「ベトナム社会地理の中のタイ族」
（東京大）吉田　元夫
「南西タイ語族中の東北分岐について」
（東京外大）三谷　恭之
「タイバックタイ族資料について」
（大阪外大）冨田　健次

シップソンチュータイ（タイバックタイ族）をめぐって(2)——ムアング国家の政治構造——（1984年1月21—22日）

「問題提起」　桜井由躬雄
「南西タイ系諸語の分化について」
（東京外大）三谷　恭之
「タイバックタイの政治構造について」
（東京都立大）吉沢　南
（大阪外大）冨田　健次
「ムアング・ラーオの政治構造について」
（大阪外大）吉川　利治
「シップソンパンナーの政治構造について」
（名古屋大）馬場　雄司
「ベトナム社会主義共和国の少数民族政策」
（東京大）古田　元夫

30. 東南アジアの〈国家〉（1983年12月17—18日）

これは，さきに開催された「東南アジアの〈まち〉と〈むら〉」，「〈東南アジア的なるもの〉をめぐって」の2回のシンポジウムを継承するものであった。東南アジア世界に存在してきた〈国家〉のかたちの独自性を追究するために，政治学，歴史学，生態学，人類学等の各専門分野から〈国家〉にかかわるパラダイムが提示されたが，その前提にあったのは，西欧型〈国家〉を前提とする国家論への方法的反省であった。東南アジアの〈国家〉を，広く他の地域のそれとの比較の視野において捉えることを試み，東南アジア以外の地域の専門家から各々の〈国家〉の形態と〈国家〉概念が提示された。

「シンポジウムの趣旨説明」　矢野　暢
第1セッション　総論
問題提起「〈国家〉論への試み」　矢野　暢
総論1「適地と核心域」　高谷　好一
総論2「小国家論・支配論」　坪内　良博
第2セッション　島嶼部の〈国家〉
「海域世界における〈国家〉」　前田　成文
「植民地ジャワの王と〈王国〉」　土屋　健治
「〈インドネシア〉への道」
（東京大）永積　昭
第3セッション　比較の視点
「中東の〈国家〉」（アジア経済研）林　武

「アフリカの〈国家〉」
（京大教養部）米山　俊直

「日本の古代〈国家〉」
（京都女子大）村井　康彦

31. 第2回南北問題シンポジウム（1984年2月10―11日）

1980年の「第1回アジアにおける南北問題セミナー」を継承して開催されたものであり，今回は前回で討議しつくされなかった南北問題の諸側面（新興工業国，企業者層形成，政治的視点など）ならびに1980年代初頭における南北問題の新展開（債務累積，日本の対外協力など）に視点があてられた。

「アジアにおける発展途上国の問題点」
市村　真一，討論者　（大阪大）安場　保吉

「新興工業国とアジアの市場構造」
（筑波大）渡辺　利夫，討論者　江崎　光男

「後進国の債務累積問題」
（三菱銀行）安永　文雄
討論者　（大阪大）新開　陽一

「東南アジアにおける企業者層の形成」
吉原久仁夫
討論者　（青山学院大）石川　滋

「日本の対外協力への課題」
（外務省）川村　知也
討論者　（神戸大）村上　敦

総合討論　アジアの南北問題
「経済から見た南北問題」　市村　真一
「政治から見た南北問題」　矢野　暢

32. 〈近代化〉とはなにか（1985年5月25―26日）

前回のシンポジウム「東南アジアの〈まち〉と〈むら〉」，「〈東南アジア的なるもの〉をめぐって」，「東南アジアの〈国家〉」に続き，東南アジアにとって〈近代化〉とはなにを意味するかを問う鋭い試論が提出され，議論が交わされた。

「シンポジウムの趣旨説明」　矢野　暢
第1セッション　〈近代〉への視点
問題提起1「マレー的原理，イスラーム，近代化――マレー」　前田　成文
問題提起2「近代的精神の成立――ジャワ」　土屋　健治
問題提起3「文化接触と近代化――マレー」　坪内　良博
第2セッション　東南アジアの〈近代化〉
事例研究1「同時代的適応の論理――タイ」　矢野　暢
事例研究2「女性原理と近代化――スマトラ」　加藤　剛
事例研究3「農村の変容――東北タイ」　福井　捷朗
第3セッション　現象としての〈近代〉
報告1「日本の事例　反近代の勃興」
（甲南女子大）橋本　満
報告2「日本の事例　日本の前近代についての試論」　（京都大）横山　俊夫
報告3「トルコの事例　トルコの村の近代化」
（国立民博）松原　正毅

（4）研究会等

センターでは，比較的大きなシンポジウム・セミナーの他に，各種の研究会が開催され

ている。テーマを絞った，定期的な「研究例会」，センタースタッフ全員で進行中の共同研究を検討する「プロジェクト報告会」，センターの客員部門の外国人研究員や折々にセンターを訪問する外国人研究者による「特別研究会」などの他にも，共同研究グループ内部での検討会，少人数での定期，不定期の研究会，他の機関との共催による各種研究会（例えば，自然と農業研究会，東南アジア史学会関西例会，漢籍を読む会）などがあり，常時センター内外の人々の出入りがたえない。

（5） 東南アジアセミナー

東南アジアセミナーは，数十人の受講者を募り，東南アジアの自然，文化，社会等について概説し，専門的研究に必要な基礎知識を付与するため，集中的な講義及び演習を行うことを目的とし，1976年から毎年夏に2週間開催されているものである。近年は，年ごとに異なるテーマを決め，かなり専門的な講義も含めており，受講者から好評を得ている。1981年度以降のセミナーのテーマ，講義題目，講師の一覧を掲げておく。

1981年度

テーマ「インドネシアと島嶼部の世界」（7月17—30日）

「開講にあたって」　渡部　忠世
「資料紹介」　北野　康子
〔概説〕
(1)　「自然と生業」　高谷　好一
(2)　「民族と社会」　前田　成文
(3)　「政治と文化」　土屋　健治
〔言語と歴史〕
(1)　「インドネシア諸語の位置づけ」　三谷　恭之
(2)　「東南アジア史の中のインドネシア」　桜井由躬雄
(3)　「インドネシア史Ⅰ」　（大阪外大）深見　純生
(4)　「インドネシア史Ⅱ」　（センター客員）Lapian
〔宗教〕
(1)　「東南アジアの宗教とインドネシア」　石井　米雄
(2)　「ジャワの宗教」　（一橋大）関本　照夫
〔経済と人口〕
(1)　「東南アジアの南北問題」　江崎　光男
(2)　「インドネシアの経済発展」　市村　真一
(3)　「人口問題の諸相」　（日本大）小林　和正，坪内　良博
〔地域特論〕
(1)　「気候と土壌」　安成　哲三，古川　久雄
(2)　「トラジャの農業」　高谷　好一
(3)　「トラジャの社会と文化」　（広島大）山下　晋司
(4)　「ブギスの農業」　田中　耕司
(5)　「ブギスの社会と文化」　前田　成文
(6)　「スマトラの農業」　古川　久雄
(7)　「スマトラの社会と文化」　坪内　良博
〔政治〕
(1)　「現代政治」　土屋　健治
(2)　「国際政治の中のインドネシア」　矢野　暢
〔総合討論〕　渡部　忠世ほか

1982年度

テーマ「大陸部東南アジアの世界」（7月19—31日）

「開講にあたって」　渡部　忠世
「図書・資料紹介」　北野　康子

〔総説〕

(1)　「エクメネ」　高谷　好一
(2)　「歴史と文化」　石井　米雄
(3)　「政治と社会」　矢野　暢
(4)　「経済」　市村　真一

〔各論〕

(1)　「熱帯の農業景観」
（京都府大，センター客員）服部　共生
(2)　「山地農業発達史」　古川　久雄
(3)　「低地農業発達史」　高谷　好一
(4)　「フォーク・カルチャー」
（東京外大）飯島　茂
(5)　「東南アジアの言語」
（東京外大）三谷　恭之
(6)　「上座部仏教の諸相」　石井　米雄
(7)　「タイ人の文化と社会」
（国立民博）田辺　繁治
(8)　「ラーオ人の文化と社会」
（大阪外大，センター客員）吉川　利治
(9)　「ベトナム人の文化と社会」　桜井由躬雄
(10)　「クメール人の文化と社会」　桜井由躬雄
(11)　「ビルマ人の文化と社会」
（大阪外大）大野　徹
(12)　「民族と人口」　坪内　良博
(13)　「タイ国の政治構造」　矢野　暢
(14)　「ベトナムのナショナリズム」
（大阪外大）白石　昌也
(15)　「タイの学生運動と知識人」　鈴木　静夫
(16)　「工業化と経済発展」
（大阪大）安場　保吉
(17)　「タイ国の経済発展」　江崎　光男
(18)　「マレーシア経済と東南アジア」
（京都産大）阿部　茂行
(19)　「シンガポール経済と東南アジア」
吉原久仁夫
(20)　「社会主義国の現状と課題」　市村　真一
(21)　「東南アジア地域計画」
（農学部）北村貞太郎
(22)　「開発と環境保全：メコンの水をめぐって」　海田　能宏
(23)　「農村開発」　（農学部）今井　敏行
(24)　「農村経済」　（農学部）辻井　博

〔ドンデーング村：ある農村総合調査〕

(1)　「自然と農業」　海田　能宏
(2)　「農村社会」　（龍谷大）口羽　益生

〔大陸部と島嶼部〕

(1)　「人口と都市」　坪内　良博
(2)　「都市と移住民」　加藤　剛
(3)　「国民形成」　土屋　健治
(4)　「文化の接点」　前田　成文

「東南アジア研究をめぐって」　渡部　忠世

〔総合討論〕

1983年度

テーマ「東南アジアの農業」（7月11—23日）

「開講にあたって」　渡部　忠世
「図書・資料紹介」　北野　康子

〔自然と農業〕

(1)　「東南アジアの農業基盤」　高谷　好一
(2)　「熱帯の土壌」　古川　久雄
(3)　「熱帯の森林」（大阪市立大）依田　恭二
(4)　「稲作と畑作の比較」　福井　捷朗

〔作物と技術〕

(1)　「稲作以前」　（国立民博）佐々木高明
(2)　「雑穀栽培」　（農学部）阪本　寧男

(3) 「根菜栽培」 (教養部) 堀田 満
(4) 「工芸作物」 (神戸大) 佐藤 孝
(5) 「稲の系譜」 渡部 忠世
(6) 「緑の革命」 (佐賀大) 佐本 四郎
(7) 「伝統技術の意味」 (琉球大) 丸杉孝之助
(8) 「耕耘技術」 (神戸大) 堀尾 尚志
(9) 「焼畑の生態」 (農学部) 久馬 一剛
(10) 「かんがいの社会性」 (国立民博) 田辺 繁治

〔農民と農村〕
(1) 「農耕儀礼」 前田 成文
(2) 「農業形態と親族制度」 加藤 剛
(3) 「水利と農村社会組織」 桜井由躬雄
(4) 「農家経営」 (東京大) 福井 清一

〔国家と農業〕
(1) 「農業発展と社会変容」 土屋 健治
(2) 「農業と経済発展」 市村 真一
(3) 「一次産品問題」 江崎 光男

〔地域農業の展開と開発〕
(1) 「デルタの開発」 高谷 好一
(2) 「バングラデシュ農業計画」 (センター客員) アルタフ・アリ
(3) 「未利用低湿地」 古川 久雄
(4) 「ランポン農業開発」 (東京大) 冨田 正彦
(5) 「東北タイの農業」 (京都府立大，センター客員) 服部 共生
(6) 「モチイネ栽培圏」 渡部 忠世
(7) 「Agro-forestry」 (農学部) 渡辺 弘之
(8) 「カガヤン地域の農業」 古川 久雄
(9) 「スリランカの農業」 高谷 好一
(10) 「農業開発と情報」 (農水省熱帯農研) 八田 貞夫
(11) 「インドネシア外島開発」 古川 久雄
(12) 「タイの畑作」 福井 捷朗

〔東南アジア農業の視点と方法〕
(1) 「政治学における農村研究」 矢野 暢
(2) 「人類学における農村研究」 坪内 良博
(3) 「地理学における農業・村落研究」 (文学部) 応地 利明
(4) 「農学における村落調査」 福井 捷朗

〔総合討論〕

1984年度

テーマ「南北問題の視点から見た東南アジア経済論」(7月16—28日)

「開講にあたって」 渡部 忠世
「図書・資料紹介」 北野 康子

〔南北問題の政治経済学——序説〕
(1) 「南北問題とはなにか」 市村 真一
(2) 「植民地支配と貧困」 矢野 暢
(3) 「低開発国研究の主要課題」 吉原久仁夫
(4) 「開発経済学と現代経済理論」 高山 晟

〔世界的に見た南北問題〕
(1) 「東・東南アジア」 市村 真一
(2) 「アフリカ」 (国際大) 犬飼 一郎
(3) 「西アジア(中東)」 (外務省中東局) 英 正道
(4) 「南アジア」 (アジア経済研) 山口 博一
(5) 「中南米」 (京都産大) 湯川 攝子

〔東南アジアの国別発展動向と課題〕
(1) 「タイ」 (タマサート大) Lily Kosiyanon (南山大) 足立 文彦
(2) 「フィリピン」 吉原久仁夫
(3) 「マレーシア」 (京都産大) 阿部 茂行
(4) 「インドネシア」 江崎 光男
(5) 「ベトナム」 桜井由躬雄
(6) 「ビルマ」 (東京外大) 奥平 龍二
(7) 「シンガポール」 吉原久仁夫

〔東南アジアの農業と農村〕
(1) 「農業発展の過去と展望——大陸部」
海田　能宏
(2) 「農業発展の過去と展望——島嶼部」
高谷　好一
(3) 「農村から見た農業発展」　福井　捷朗
〔東南アジア経済の問題点の解明〕
(1) 「人口の動向と人口政策」
（日本大）小林　和正，五十嵐忠孝
(2) 「工業化・貿易及び債務累積」
高山　晟，市村　真一
(3) 「所得分配の不平等」　江崎　光男
(4) 「企業者層の形成と経営」
吉原久仁夫，（滋賀大）冨田　光彦
〔経済発展の政治社会学〕
(1) 「宗教と経済発展」　石井　米雄
(2) 「社会構造と経済発展」　坪内　良博
(3) 「経済発展と文化変容」　土屋　健治
(4) 「経済発展と政治発展」　片山　裕
〔総合討論〕

1985年度

テーマ「マレー世界のなりたち」（7月1—13日）

「開催にあたって」　石井　米雄
「図書・資料紹介」　北野　康子
〔マレー世界のひろがり〕
「序・海にひろがる世界」　前田　成文
「言語のひろがり」　（国立民博）崎山　理
〔海域世界のエコロジー〕
(1) 「熱帯降雨林とサバンナのエコロジー」
高谷　好一
(2) 「熱帯島嶼の開拓空間」　田中　耕司
(3) 「伝統的居住空間」　坪内　良博
〔ムラユ的社会のしくみ〕
(1) 「伝統的社会と世界観」
（龍谷大，センター客員）口羽　益生
(2) 「クランタン・マレー」　坪内　良博
(3) 「ミナンカバウ」　加藤　剛
(4) 「リアウ・マレーとブギス」　前田　成文
(5) 「イバン」　（岐阜大）内堀　基光
(6) 「トラジャ」　（広島大）山下　晋司
(7) 「エンデ」　中川　敏
(8) 「ボントック」　（神戸大）合田　濤
(9) 「台湾原住民」　（国立民博）松沢　員子
〔ムラユの「くに」と近代国家〕
(1) 「スマトラ」　（摂南大）深見　純生
(2) 「マレー半島とスラウェシ」
（オークランド大学，センター客員）
Leonard & Barbara Andaya
(3) 「ジャワ」　土屋　健治
(4) 「ルソン」　（東京外大）池端　雪浦
(5) 「現代イスラームと国家」
加藤　剛，土屋　健治
(6) 「マレー世界における〈近代〉」
矢野　暢
〔パネルディスカッション〈マレー世界とは〉〕

（6） 資料収集

東南アジアの研究を深化，発展させるために各種の資料収集がとりわけ重要なことは言うまでもない。1965年に図書室が開設されて以来，東南アジア地域にかかわる専門書を中

心に収集を進めてきた結果，1985年3月現在40,900冊（内洋書30,380冊，和漢書10,520冊）を所蔵するにいたった。研究資料としては次のような特記すべき資料がある。

現地語資料

1983年度以来，5カ年間の文部省の特別予算を得て，東南アジア諸地域の言語で書かれた資料を中心に収集を始め，2カ年半経過後の現在，図書7,500冊，マイクロフィッシュ86ケース，マイクロフィルム210リールを蔵している。図書は，東南アジア各国の官公庁文書，旧植民地文書，統計をはじめ，重要な新刊書などは専門書のみにとどまらず，小説などをも含めて収集することにしている。今後，地域の重要なコレクションなどを含めてより充実した収集となるようめざしている。

マイクロフォーム

1971年以降，「インドネシア関係文献マイクロフィッシュ」の一部を継続的に購入したのを始め，その後機会のあるごとにその充実をはかってきた。この結果，現在までにマイクロフィルム約400リール，マイクロフィッシュ約4,000ケースが納められている。このうち，フィルムは，東南アジア諸国統計資料，インドシナ三国近・現代史資料，第2次大戦下の東南アジア関係資料などを含み，フィッシュは，コーネル大学およびオランダ王立言語民族文化研究所が所蔵するインドネシア関係資料を主としている。

雑　誌

センターで継続的に登録されている定期刊行物は洋雑誌262，和雑誌84を数える。このうち東南アジアを専門に対象とする雑誌は，創刊号から揃っている *BEFEO* をはじめとして50タイトル近くに及ぶ。東南アジアを含むアジア一般，熱帯，開発に関するタイトルは43点である。このほかにすでに刊行されていない雑誌もかなりあり，東南アジア関係では有名な Logan の *JIAEA* や *Djawa* をも含めて18タイトル，アジア関係では，London から出た *Asiatic Quarterly Journal* 及びその後身（1886—1912）や *Mondes Asiatiques* など12タイトルある。これらの地域関係雑誌の多くは欧米発行のものであるが，東南アジアの大学・研究機関の刊行する雑誌も増えてきており，それらはできるだけ収集するように努めている。その他 *Tempo, Prisma, Tenggara* などのような各国語の週刊誌，総合雑誌，文芸批評誌も定期購読している。

統　計

東南アジア・東アジア諸国の政府出版物を中心に，Yearbook, Handbook, Bulletin, Digest, Journal, Indicators 等，統計に関連する年刊・季刊・月刊の各種定期刊行物が継続的に受け入れられている(約60点)。センサス統計，標本調査，その他各種不定期刊行物も，刊行の都度，できる限り広範囲に収集する努力が続けられている（累計約120点)。分野別にみれば，国民所得，財政，金融，貿易，労働，人口など経済関係の統計が大半を占め，国別にみれば，インドネシアの比重が相対的に高い。

国別統計に加え，国連諸機関や IMF，世界銀行，アジア開発銀行等の国際機関による出版物も，他部局との重複を考慮した上，必要最小限の基本統計および開発途上国関連の統計に限って，定期購入されている（約20点)。

地　図

所有する地図は東南アジア地域を中心に，インド，バングラデシュ，スリランカ，ネパール，パキスタン，中国，朝鮮，オーストラリア，太平洋諸島及び日本周辺と，ほぼ南アジアから東アジア全域をおおっている。製作年代も，戦前のものから近年の航空測量によるものまで，多岐にわたっており，現在約１万５千枚余に及んでいる。この中には，旧陸地測量部による南アジア，東南アジア，東アジアの２万５千分の１，５万分の１地形図等，歴史的にみても貴重なコレクションもある。また，数は少ないが，東南アジア各国の土地利用図，地質図，植生図などの主題図も含まれている。

ランドサット写真

1978年からランドサット写真の収集をはじめ，現在約1,600シーンの写真を蔵している。収集地域は，濃淡はあるものの，東南アジア全域（とくにインドシナ，タイ，フィリピンなどが多い)，インド亜大陸東半部からバングラデシュ全域，南中国の一部及び日本の一部である。可能なかぎり２季節以上のシーンを選んでいる。100万分の１の白黒ポジフィルム（バンド４，５及び７）を中心に集めており，必要に応じてジアゾフィルム現像機でフォールスカラー合成画像をつくり，製版用カメラで拡大カラープリントをつくるなどの方法で利用されている。

（7） 出　　版

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は，センターが刊行する出版物を通じて発表されている。センターは，1963年以来『東南アジア研究』（年4回刊行）を出版しているほか，和文・英文の『叢書』，シンポジウムの報告や科学研究費その他各種奨学金などによる研究の報告書等を含む『報告書シリーズ』，『リプリント・シリーズ』，『ディスカッション・ペーパー』等を刊行している。また，1979年度以来，『センター・ニューズレター』を年2回発行し，研究活動等の広報を行っている。

『東南アジア研究』は現在23巻3号（通巻93号）になっており，所収論稿は膨大な数になるため，近く総目録を『東南アジア研究』別冊（23巻5号）として刊行することになっている。その他のセンターの刊行した図書，論稿などは，第5章「出版目録」にその一覧を掲げているので，ご参照いただきたい。

第4章　研究スタッフ

東南アジア研究センターの現職研究スタッフの略歴，現在の研究テーマ，主要な研究業績などを紹介する。各研究スタッフは，研究部門では人文系，社会系，自然系，客員部門，続いて資料部の順に配列されており，1. 最終学歴，2. 学位，3. 専門分野，4. 現在の研究テーマ，5. 略歴，6. 主要な研究業績の順である。

(1) 研究部門

人文系

石井　米雄

1. 東京外国語大学シャム語学科中退，1955.
2. 京都大学法学博士，1980.
3. 東南アジア史
4. (1) 東南アジアにおける王権と仏教
   (2) 『三印法典』の研究
5. 1955年，外務省入省（アジア局，在タイ大使館勤務）。1965年，東南アジア研究センター助教授として採用され，1967年，教授に昇進，現在に至る。
   その間，タイ国，インドネシア等で現地調査を行う。1973～75年，ロンドン大学 SOAS に研究留学してビルマ語，カンボジャ語を学ぶ。
6. (1) 『上座部仏教の政治社会学――国教の構造』創文社，1975.
   (2) 『インドシナ文明の世界』〔世界の歴史14〕講談社，1977.
   (3) 『戒律の救い――小乗仏教』〔世界の宗教8〕淡交社，1969.
   (4) 『タイ国――ひとつの稲作社会』（編著）創文社，1975.
   (5) 『差異の事件誌――異文化認識の相克』（編著）巌南堂，1984.
   (6) "The Thai Thammasat (with a note on the Lao Thammasat)," in M. B. Hooker (ed.), *The Laws of South-east Asia*, Vol. 1, Butterworths, Singapore, in press.
   (7) "Modern Buddhism in Indonesia," in G. Dhammapala, R. Gombrich, K. R. Norman (eds.), *Buddhist Studies in Honour of Hammalava Saddhatissa*, University of Sri Jayewardenepura, Nugegoda, 1984.
   (8) 「ボウリング・ハリス・ド=モンティニー三条約のタイ語テキストに関する覚え書き」『山本達郎博士古稀記念・東南アジア・インドの社会と文化』山川出版社，1980.
   (9) 「『29の訴訟項目』(Ekūnatiṁsā Mūlagati Vivāda) について――インド古代法「パーリ化」の一事例」『東南アジア研究』23(2)，1985.
   (10) 「ラタナコーシン朝初期における王権とサンガ――『三印法典』「サンガ布告」を中心に」『東南アジア研究』22(3)，1984.
   (11) 「《ポンサーワダーン》（王朝年代記）についての一考察」『東南アジア研究』22(2)，1984.
   (12) 「タイの伝統法――『三印法典』の性格をめぐって」『国立民族学博物館研究報告』

8(1), 1983.

(13) 「インドネシア上座部仏教史研究ノート」『東南アジア研究』18(2), 1980.

(14) 「カンボジアのサンガについて」『仏教研究』9, 1980.

(15) 「ラオスのサンガ法——1959年サンガ勅令全訳」『仏教研究』8, 1979.

(16) 「D. B. Bapt. Pallegoix: Grammatica Linguae Thai (1850) について」『ロマンス語研究』12, 1979.

(17) 「タイ国における〈イスラーム擁護〉についての覚え書き」『東南アジア研究』15(3), 1977.

(18) "A Note on Buddhistic Millenarian Revolts in Northeastern Siam," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.

(19) 「タイにおける近代教育の発展——とくにサンガの役割を中心として」多賀秋五郎(編)『近代アジア教育史下』岩崎学術出版社, 1975.

前田　成文

1. 京都大学文学部, 1963.
2. シカゴ大学 Ph. D. (人類学), 1974.
3. 文化人類学
4. (1) マレー世界の社会と文化
   (2) ブギス族におけるイスラームと伝統
   (3) 社会システムと生活世界
5. 1964年, マラヤ大学マレー学科に留学。1965年初頭に Kedah 州農村の臨地研究を3カ月行なった後, 同年7月から翌年5月までジョホール州でオラン・フルの民族誌的研究に従事する。1967年から2カ年間, マラヤ大学において日本学講座の講師を勤めた後, 1969年にセンターに奉職。1971年から1年間, マラッカ州の農村で主として社会経済的なデータに基づいて, 家族, 世界観の研究を行う。1974年から75年にかけて南ベトナムのメコン・デルタの農村のリーダーシップの調査。同年11月から翌年3月までインドネシア, 南スラウェシの調査。南スラウェシ調査は1980年に再び開始し, 1984年まで3次にわたって, 主として非ムスリム教徒も住む平地村落で調査を継続する。その間, リアウ, マラカ, スリランカ, 南インドでも短期間のサーベイを行う。1977年から79年にかけてジャカルタの日本大使館に勤務。
6. (1) 「マレー半島におけるジャクンの親族名称」『東南アジア研究』4(5), 1967.
   (2) 「マラヤにおけるジャクンの家族構成の特質」『東南アジア研究』5(3), 1967.
   (3) 「ジャクン(オラン・フル)の結婚と離婚」『東南アジア研究』6(4), 1969.
   (4) 「マラヤ原住民の経済生活」『アジア経済』10(5), 1969.
   (5) 「ジャクン・コミュニティの社会秩序」『東南アジア研究』7(3), 1969.
   (6) 「双系的親族組織におけるイトコ婚」『東南アジア研究』10(4), 1973.
   (7) 『マレー農村の研究』(共編著)創文社, 1976.
   (8) 『核家族再考——マレー人の家族圏』(共著) 弘文堂, 1977.
   (9) "The Malay Family as a Social Circle," 『東南アジア研究』16(2), 1978.
   (10) 「マレーシアの家族」原ひろ子(編)『諸文化と家族』至文堂, 1983.
   (11) "Family Circle, Community and Nation in Malaysia," *Current Anthropology*, 16, 1975.
   (12) "A Melakan Farming Village," in P. Wheatley and K. S. Sandhu (eds.), *Melaka: The Transformation of a Malay Capital c. 1400-1980*, Oxford University Press.
   (13) 「コミュニティ宗教におけるシンボリズム」『東南アジア研究』14(3), 1976.

(14) 「生活環境と社会組織——南スラウェシの一山村誌」『東南アジア研究』20(1), 1982.

(15) "An Inventory of Agricultural Rites in Amparita, Sidrap," in N. Maeda and Mattulada (eds.), *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.

(16) 「屋敷地共住集団と家族圏」(共著)『東南アジア研究』18(2), 1980.

(17) "The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.

(18) 「稲作儀礼雑観」渡部忠世(編)『南西諸島農耕における南方的要素』京都大学東南アジア研究センター, 1982.

(19) 「差異の文化論」石井米雄(編)『差異の事件誌——植民地時代の異文化認識の相克』巌南堂, 1984.

(20) 「オランダ植民地官吏の文化摩擦」同上所収.

土屋　健治

1. 東京大学教養学部, 1966.
2. 東京大学社会学博士, 1981.
3. 政治思想史
4. (1) インドネシア政治論
   (2) ジャワ文化史論
5. 1968～70年, インドネシア共和国ガジャ・マダ大学に留学。1973年, 千葉大学人文学部助手に採用される。1974年, 東南アジア研究センター助手に配置換, 1978年, 助教授に昇任, 現在に至る。

   1975年, インドネシア国立博物館(ジャカルタ), タマン・シスワ図書資料館(ジョクジャカルタ)等にてインドネシアナショナリズムに関する研究に従事。1975～77年, ライデン大学, 王立言語民族文化研究所(ライデン), 旧植民地省文書館等にてインドネシアナショナリズムに関する研究に従事。1979～80年, インドネシア大学客員教授として「インドネシア政治思想史論」および「東南アジア社会論」の講義を行う。1982年, コーネル大学東南アジアプログラムの客員研究員としてジャワ文化に関する研究に従事。1983年, タイ, フィリピン, インドネシアにおいて現代国家論に関する現地調査に従事する。
6. (1) 『インドネシア民族主義研究——タマン・シスワの成立と展開』創文社, 1982.
   (2) 「南方関与の理論的枠組について」衛藤瀋吉(編)『日本をめぐる文化摩擦』弘文堂, 1980.
   (3) 「キ・ハジャル・デワントロ」阿部洋(編)『現代に生きる教育思想, 第8巻アジア』ぎょうせい, 1981.
   (4) 「19世紀ジャワ文化論序説——ジャワ学とロンゴワルシトの時代」土屋健治・白石隆(編)『東南アジアの政治と文化』東京大学出版会, 1984.
   (5) 「スカルノ思想の成立とその背景」『東京大学国際関係論研究』3, 1968.
   (6) 「スカルノと『エンデ書簡』」『季刊東亜』11, 1970.
   (7) 「スカルノの研究——パンチャ・シラ成立の過程」『東南アジア研究』8(4), 1971.
   (8) 「スカルノとハッタの論争」『東南アジア研究』9(1), 1971.
   (9) 「サミン運動とインドネシア民族主義」『東南アジア研究』9(2), 1971.
   (10) 「タマン・シスワの研究——初期の活動に関する一考察」『東洋文化研究所紀要』62, 1974.
   (11) 「スカルノ研究の視角についての一試論——ジョン・レッグ著『スカルノ伝』を手掛りとして」『アジア経済』15(12), 1974.
   (12) 「インドネシアの開発政策と政治的安定」『海外事情』30(10), 1982.
   (13) 「インドネシアにおける政治と言語——

バ・スロ事件の文化論的考察」『国際政治』74, 1983.

(14) 「ジョクジャカルタ——中部ジャワにおける〈みやこ〉の成立と展開」『東南アジア研究』21(1), 1983.

(15) 「カルティニの心象風景」『東南アジア研究』22(1), 1984.

(16) "Fungsi Taman Siswa Dalam Pergerakan Nasional Indonesia Khususnya Dalam Tahun Tigapuluhan," *Pusara*, 40 (7), 1970.

(17) "Gerakan Taman Siswa : Delapan Tahun Pertama Dan Latar Belakang Jawa," in S. Ichimura and Koentjaraningrat (eds.), *Indonesia : Masalah Dan Peristiwa Bunga Rampai*, Yayasan Obor, Jakarta, 1976.

(18) "Perjuangan Taman Siswa Dalam Pendidikan Nasional," *Jurnal Penelitian Sosial*, 4(8), 1980.

(19) "The Taman Siswa Movement—Its Early Eight Years And Javanese Background," *Journal of Southeast Asian Studies*, 6(2), 1975.

(20) "The Dispute Between Sukarno And Hatta in The Early 1930's," in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia : Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, 1977.

加藤　剛

1. 一橋大学社会学部, 1966.
2. コーネル大学 Ph. D., 1977.
3. 社会学
4. (1) ミナンカバウ母系制社会の変容
   (2) ジャカルタ都市移住民の生活
   (3) 東南アジアの都市人類学
5. 1977年, 上智大学外国語学部比較文化学科講師に採用される。1979年, 東南アジア研究センター助教授に採用され, 現在に至る。

   1972～73年, インドネシア・西スマトラ州においてミナンカバウ社会の変容に関する調査, 1973～74年, 南部スマトラにおいて地域開発における伝統的村落指導者の役割に関する調査, 1980～81年, ジャカルタ都市移住民の調査, 1982年, スマトラ・リアウ州においてエコロジーと種族的環境適応に関する調査, 1984～85年, リアウ州・クワンタンにおいて村落社会史に関する調査を行う。
6. (1) 「西部スマトラ・ミナンカバウの社会構造」早稲田大学社会科学研究所(編)『インドネシア』早稲田大学出版局, 1979.
   (2) "Rantau Pariaman : The World of Minangkabau Coastal Merchants in the Nineteenth Century," *Journal of Asian Studies*, 39(4), 1980.
   (3) 「矛と盾？——ミナンカバウ社会にみるイスラームと母系制の関係について」『東南アジア研究』18(2), 1980.
   (4) *Matriliny and Migration : Evolving Minangkabau Traditions in Indonesia*, Cornell University Press, 1982.
   (5) 「都市と移住民：ジャカルタ在住ミナンカバウの事例」『東南アジア研究』21(2), 1983.
   (6) 「ミナンカバウ社会について」ムハマッド・ラジャブ(著), 加藤剛(訳)『スマトラの村の思い出』めこん, 1983.
   (7) "Typology of Cultural and Ecological Diversity in Riau, Sumatra," in N. Maeda & Mattulada (eds.), *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.

中川　敏

1. 東京大学教養学部, 1976.
2. 東京大学社会学修士, 1978.
3. 文化人類学

4. (1) 東インドネシア，エンデ族の民族誌作成
(2) 東インドネシアにおける交換の比較研究
(3) 説明と了解の一般理論

5. 1981～89年，オーストラリア国立大学太平洋研究所人類学科に留学。1984年東南アジア研究センター助手に採用され現在に至る。
1979～81年，83年，84年の3次にわたりインドネシア，フローレス島中部にて人類学的調査に従事。

6. (1) 「スンバ島に於ける動・植物分類」『社会人類学年報』4，1978.
(2) 「スンバ島における時・空間表象」『民族学研究』43(4)，1979.
(3) 「フローレス島中部エンデ族における農耕サイクル及び関連諸儀礼」『東南アジア研究』20(3)，1982.

桃木　至朗

1. 京都大学文学部，1978.
2. 京都大学文学修士，1981.
3. 歴史学
4. (1) 独立王朝時代ベトナムの政治構造の変遷
(2) ベトナム史の時代区分
(3) 漢籍から見た東南アジア史

5. 1985年，東南アジア研究センター助手に採用され，現在に至る。

6. (1) 「陳朝期ヴェトナムの政治体制に関する基礎研究」『東洋史研究』41(1)，1982.
(2) 「陳朝期ヴェトナムの路制に関する基礎的研究」『史林』66(5)，1983.
(3) 「日本におけるヴェトナム前近代史研究の成果と課題――独立王朝期の時代区分をめぐって」『新しい歴史学のために』175，1984.
(4) 『大清実録中東南亜関係記事・乾隆（全5冊）』（編）東南アジア史学会関西例会漢籍を読む会，1985.

社会系

市村　真一

1. 京都大学経済学部，1949.
2. マサチューセッツ工科大学 Ph. D.（経済学），1953. 経済学博士，1961.
3. 計量経済学・経済発展論
4. (1) アジア諸国の計量モデル分析
(2) アジア経済発展の類型とその政治経済学
(3) 日系合弁企業の経営

5. 大阪大学経済学部教授を経て，1968年，東南アジア研究センター教授に着任，現在に至る。この間，1969年から1979年まで同所長を兼任する。
数理経済学の分野で研究活動を開始し，その後，興味を日本経済の実証分析に移して，産業連関分析と計量モデル作成などの業績を残した。同じ頃，地域学分野に関心をもち，アジア太洋州の都市化問題等の研究を通じ，また国際会議への出席を通じて，次第に開発途上国の発展と日本とのかかわりに関心を持つに至った。東南アジア研究センターに移籍後は，東南アジア研究を学際的に推進することに力を注ぐとともに，農村開発・技術移転・経営と労使関係およびエコノメトリックモデルなどの各分野を中心に，東南アジア諸国の比較研究に従事している。

6. (1) "Toward a General Non-Linear Dynamic Theory of Economic Fluctuations," in K. K. Kurihara (ed.), *Post-Keynesian Economics*, Rutgers University Press, New Brunswick, 1954.
(2) 「経済成長と景気循環」高田保馬（編）『経済成長の研究，第三巻』有斐閣，1957.
(3) 『日本経済の構造』創文社，1957.
(4) "Factor Proportions and Foreign Trade: The Case of Japan,"（共著）*Review of Economics and Statistics*, 1959.

(5) 「貨幣の需要函数と貨幣の供給函数」『季刊理論経済学』1962.

(6) 「日本の輸出函数」『季刊理論経済学』1964.

(7) "A Quarterly Econometric Model of Postwar Japanese Economy: 1952-61," (共著) *Osaka Economic Papers*, 1964.

(8) *An Econometric Analysis of the Japanese Economy*, (共著) The Japanese Society for Asian Studies, 1977.

(9) "A Model of Regional Planning," *Papers and Proceeding of Regional Science Association*, Tokyo Univ. Press, 1965.

(10) "An Econometric Analysis of Domestic Migration and Regional Economy," *The Regional Science Association Papers*, 1966.

(11) "The Present State of Research on Urbanization and its Effects on Cultural Change in ASPAC Member Countries: A Bibliographic Survey," (共著) *ASPAC*, 1972.

(12) 『世界のなかの日本経済』中央公論社(中公新書), 1965.

(13) "Interdisciplinary Research and Area Studies," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.

(14) *The Regional Economic Survey of South Sumatra*, LIPI, Jakarta, 1975.

(15) "The Socio-Economic Behavior of Peasants in Central Java and Central Thailand," (共著) 『東南アジア研究』12(3), 1974.

(16) "A Comparative Study of Green Revolution and Rural Development in Asia," 『東南アジア研究』18(4), 1981.

(17) "Institutional Factors and Government Policies for Appropriate Technologies: Survey Findings in Indonesia, Thailand and the Philippines," World Employment Programme Research, Working Paper 110, ILO, January, 1983.

(18) "Japanese Management in Southeast Asia: Introduction," 『東南アジア研究』22(4), 1985.

(19) "Japanese Management in Indonesia," 『東南アジア研究』23(1), 1985.

(20) *Econometric Models of Asian Link*, (共著) Springer-Verlag, Tokyo-Heidelberg-New York, 1985.

矢野　暢

1. 京都大学法学部, 1959.
2. 京都大学法学博士, 1970.
3. 政治学, 地域研究論
4. (1) タイ国の現代政治史
   (2) 東南アジアの国家構造
   (3) 近代日本の南方関与
5. 1966～68年, 大阪外国語大学タイ語科専任講師としてタイ語およびタイ国事情を講義。1968～72年, 日本外交史講座の助教授として広島大学政経学部に在職する。その間, 1968～69年, 米国ジョージ・ワシントン大学客員準教授として, 東南アジア国際関係の研究に従事する。1972年, 東南アジア研究センターに助教授として着任, 1978年, 同教授に昇進し, 現在に至る。

   1964～66年, タイ国南部のタイ・イスラム農村に単身定着調査を行なったのをはじめ, タイ国を中心に, 東南アジアの各地で, 今日まで数次にわたる現地調査を行なっている。そして, 独創的な国家論を中心に, 生態学的な政治学を開拓し, 旧来の政治学に新しい次元をひらいている。また, 体系的な東南アジア学の構築にも関心をもち, 「地域」認識のパラダイムを求めて, 理論的模索を重ねている。
6. (1) 『タイ・ビルマ現代政治史研究(付録「タ

イ・ビルマ現代政治史史料集纂上)』創文社，1968.

(2) 『日本の「南進」と東南アジア』日本経済新聞社，1975.

(3) 『「南進」の系譜』中央公論社（中公新書），1975.

(4) 『日本の南洋史観』中央公論社（中公新書），1979.

(5) 『東南アジア世界の論理』中央公論社（中公叢書），1980.

(6) 『南北問題の政治学』中央公論社（中公新書），1982.

(7) 『東南アジア世界の構図』日本放送出版協会（NHK ブックス），1984.

(8) 「南タイの土地所有——タイ・イスラム村落におけるケース・スタディ」『東南アジア研究』4(5)，1967.

(9) "Sarit and Thailand's Pro-American Policy," *The Developing Economies*, 6(3), 1968.

(10) 「南タイにおける通婚圏の形成」『東南アジア研究』7(4)，1970.

(11) 「南タイ農村民の村外居住体験について」『東南アジア研究』8(2)，1970.

(12) 「南タイ農村の経済生活」『東南アジア研究』8(4)，1971.

(13) 「タイ国の政治指導の特性——サリット『革命団布告』を主題に」『アジア経済』12(7)，1971.

(14) 「南タイ農村の発展史的把握(一)——派生村形成の社会過程」『東南アジア研究』12(1)，1974.

(15) "The Political Elite Cycle in Thailand," *The Developing Economies*, 12(4), 1974.

(16) 「タイにおける『革命団布告』の政治機能——73年『10月政変』の背景についての一考察」『東南アジア研究』12(4)，1975.

(17) 「『稲作国家』の政治構造」石井米雄(編)『タイ国——ひとつの稲作社会』創文社，1975.

(18) 「国民形成への『文化主義』的接近」年報政治学『国民国家の形成と政治文化』1978年度版，岩波書店，1980.

(19) 「タイ国における『郡長』の政治機能——《ラーチャカーン》の政治的本質との関連で」『東南アジア研究』18(2)，1980.

(20) 「地域研究と政治学」年報政治学『政治学と隣接諸科学の間』1980年度版，岩波書店，1982.

坪内　良博

1. 京都大学文学部，1960.
2. 京都大学文学博士，1970.
3. 社会学・人口学
4. 東南アジアの社会と人口
5. 1966年，東南アジア研究センター助手に採用される。1970年，同助教授，1982年，同教授に昇任，現在に至る。

   1968～69年，プリンストン大学などで人口学に関する研修。東南アジア各地（とくにマレーシアおよびインドネシア）において現地調査に従事する。

6. (1) 『離婚——比較社会学的研究』(共著)創文社，1970.

   (2) 『マレー農村の研究』(共編著)創文社，1976.

   (3) 『核家族再考——マレー人の家族圏』(共著) 弘文堂，1977.

   (4) *Three Malay Villages: A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia*, (共著) University Press of Hawaii, Honolulu, 1979.

   (5) 「双系的親族構造をもつマレー系諸民族の離婚について」『東南アジア研究』6(4)，1969.

   (6) 「クランタンの一農村におけるタバコ耕作の導入と社会・経済変化」『東南アジア研究』9(4)，1972.

(7) 「東海岸マレー農民における土地と居住」『東南アジア研究』10(1), 1972.

(8) 「マレーシア東海岸の天水田地域における稲作」『東南アジア研究』10(2), 1972.

(9) 「東海岸マレー農民における結婚と離婚」『東南アジア研究』10(3), 1972.

(10) 「マレーシア東海岸の村落住民の収入と収入源——カンポン・ガロにおけるケース・スタディー」『東南アジア研究』10(4), 1973.

(11) 「クランタンの農村におけるポンド（寄宿宗教塾)」『東南アジア研究』11(2), 1973.

(12) 「マレー農村におけるイスラームと離婚」『東南アジア研究』13(1), 1975.

(13) "Marriage and Divorce among Malay Peasants in Kelantan," *Journal of Southeast Asian Studies* (*Singapore*), 6(2), 1975.

(14) "Islam and Divorce among Malay Peasants," in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1977.

(15) 「日本人の目からみたインドネシア人勤労者」『東南アジア研究』15(2), 1977.

(16) 「コムリン川流域およびムシ川下流部における集落形成史」『東南アジア研究』17(3), 1979.

(17) "On the High Population Growth Rates of the Past in South Sumatra," (共著)『東南アジア研究』19(1), 1981.

(18) "Traditional Migration Patterns in Southeast Asia and Their Survival," *Journal of Population Studies* (*Jinkogaku Kenkyu*), 6, 1983.

(19) 「東南アジアにおける人口と伝統的基礎社会の性格——島嶼部を中心として」『東南アジア研究』21(1), 1983.

(20) 「東南アジア島嶼部における『小国』の存在形態に関するノート」『東南アジア研究』22(1), 1984.

吉原久仁夫

1. カリフォルニア大学(バークレイ校), 1966.
2. カリフォルニア大学 Ph. D. (経済学), 1966.
3. 経済学
4. 東南アジアにおける資本主義世界
5. ミシガン大学経済学部助教授（1966～69）を経て，1969年，東南アジア研究センター助手として着任，1971年，同助教授に昇任，現在に至る。

この間，1970～71年客員助教授として，および1981～82年客員教授としてフィリピン大学経済学部で経済発展論を講義。1973～74年には客員フェローとしてシンガポール大学経済学部，1976～77年に客員助教授としてスタンフォード大学経済学部，および1982～83年に客員教授としてタマサート大学経済学部で経済発展論を講義する。

6. (1) *Philippine Industrialization: Foreign and Domestic Capital*, Oxford University Press, Singapore, 1985.

(2) *Sogo Shosha: The Vanguard of the Japanese Economy*, Oxford University Press, Tokyo, 1982.

(3) *Japanese Economic Development: A Short Introduction*, 2nd ed., Oxford University Press, Tokyo, 1985.

(4) *Japanese Investment in Southeast Asia*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1978.

(5) *Foreign Investment and Domestic Response: A Study of Singapore's Industrialization*, Eastern Universities Press, Singapore, 1976.

(6) "Japanese Management in Thailand," (共著)『東南アジア研究』22(4), 1985.

(7) "Indigenous Entrepreneurs in the ASEAN Countries," *Singapore Economic Review*, 29(2), 1984.

(8) "Business Groups in Thailand," (共著) Research Notes and Discussion Paper No. 41 (Institute of Southeast Asian Studies, Singapore), 1983.

(9) 「野村財閥の南方事業」『東南アジア研究』19(3), 1981.

(10) "General Trading Companies in Thailand," in Medhi Krongkaew (ed.), *Current Development in Thai-Japanese Economic Relations: Trade and Investment*, Thammasat University Press, Bangkok, 1980.

(11) 「シンガポールの工業化における外資系企業と民族系企業」『東南アジア研究』13(2), 1975.

(12) 「シンガポールの工業化と米系企業」『東南アジア研究』12(4), 1975.

(13) 「日本の海外企業進出：韓国，台湾，香港，シンガポール」(共著)『東南アジア研究』12(2), 1974.

(14) 「ASEAN 諸国における日本の合弁企業」『東南アジア研究』11(1), 1973.

(15) 「製造業部門における生産性の推移」大川一司・速水佑次郎(編)『日本経済の長期分析』日本経済新聞社, 1973.

(16) "Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65," (共著)『季刊理論経済学』23(1), 1972.

(17) "The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio," *Hitotsubashi Journal of Economics*, 12(2), 1971.

(18) "The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index," (共著) *Journal of the American Statistical Association*, 66(333), 1971.

(19) "Long-term Models of the Japanese Economy,"『季刊理論経済学』20(3), 1969.

(20) "Demand Functions: an Application to the Japanese Expenditure Pattern," *Econometrica*, 37(2), 1969.

江崎　光男

1. 東京大学教養学部, 1966.
2. ハーバード大学 Ph. D. (経済学), 1974.
3. 計量経済学・経済発展論
4. 東南アジア諸国における経済計画と開発政策の数量的研究
5. 1969年，助手としてセンターに着任。1970～74年，ハーバード大学およびセンターにて日本経済の計量経済学的研究に従事，同大学より Ph. D. を取得。1975～76年（18カ月），フィリピン大学経済学部の客員準教授として計量経済学の大学院コースを担当するかたわら，フイリピン経済成長の数量的実証研究に従事，1977年，センター助教授に昇任。1978～79年(12カ月)，国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP，在バンコク）の経済問題担当官として，ESCAP 地域のリンク・モデル作成プロジェクトに参加。1980～84年，センターのアジア・リンク・プロジェクトに継続して従事。1981～82年(9カ月)，ジャカルタ連絡事務所に駐在，BAPPENAS（インドネシア開発計画庁）の計画モデル作成プロジェクトに参加。1985年，東南アジア諸国の経済計画と開発政策に関する海外調査プロジェクト（文部省科学研究費補助金）を組織。
6. (1) *Econometric Models of Asian Link* (共編著), Springer-Verlag, 1985.
   (2) 『経済発展論』(共編著) 創文社, 1985.
   (3) 『日本経済のモデル分析』創文社, 1977.
   (4) 「日本経済の CGE モデル」森口親司（編）『エネルギーにかんする経済学的研究』（文部省科学研究費補助金エネルギー特別研究　昭和59年度研究成果報告書), 1985.
   (5) "An Econometric Link System for the

East and Southeast Asian Countries, Japan and the United States," (共著) 『東南アジア研究』22(3), 1984.

(6) "An Econometric Model of Indonesia with Particular Reference to the Monetary Sector : 1970-1980,"『東南アジア研究』21 (2), 1983.

(7) "Review of Macro-Econometric Models for Japan with Particular Reference to Long-Term Models and the Role of Demographic Factors," in ESCAP, *Modelling Economic and Demographic Development*, Asian Population Studies Series No. 54, United Nations, 1983.

(8) 「東南アジア輸出成長の諸要因——需要サイドからの計量分析 (1967—76年)」『東南アジア研究』19(3), 1981.

(9) "The Bank of Thailand Model and its Application to Policy Simulations,"『東南アジア研究』18(1), 1980.

(10) 「技術進歩と中間財——香西氏へのリプライ」『国民経済』1980 (4月号).

(11) 「フイリピン経済の成長の社会会計」渡部忠世(編)『東南アジア世界——実像の検証』創文社, 1980.

(12) "Linking National Econometric Models of Japan, U.S.A. and the East and Southeast Asian Countries—A Pilot Study,"『東南アジア研究』17(2), 1979.

(13) 「GDP 購買力の国際比較——その理論と方法」行政管理庁統計主幹『GDP 購買力の国際比較に関する調査研究』(国際比較プロジェクト研究会報告書), 1979.

(14) "Growth Accounting of Postwar Japan : The Input Side,"『季刊理論経済学』29(3), 1978.

(15) "Growth Accounting of the Philippines : The Demand-for-Output Side,"『東南アジア研究』15(1), 1977.

(16) "Economic Theory and Social Accounting System," *NEDA Journal of Philippine Development*, 3(2), 1976.

(17) "Growth Accounting of the Philippines : A Comparative Study of the 1965 and 1969 Input-Output Tables," *Philippine Economic Journal*, 14(4), 1975.

(18) "Econometric Growth Model and Forecasting Simulations for Postwar Japan : 1952-1980,"『季刊理論経済学』26(3), 1975.

(19) "On the Two-Gap Analysis of Foreign Aid," *Journal of Southeast Asian Studies*, 6(2), 1975.

(20) 「マクロ生産性変化の測定1951-1968年」(共著)大川・速水(編)『日本経済の長期分析——成長・構造・波動』日本経済新聞社, 1973.

桜井由躬雄

1. 東京大学文学部, 1967.
2. 東京大学文学修士, 1972.
3. ベトナム社会経済史
4. 清仏戦争後の対仏抵抗
5. 1977年, 東南アジア研究センター助手に採用される。1983年, 同助教授に昇任, 現在に至る。

東・東南アジアの土地制度・農業開発・反植民地運動などに関する現地調査・資料収集のため, 1977年タイ(2カ月), 1978年タイ他3カ国(10カ月), 1980～81年インドネシア他2カ国(2カ月), 1982年インド・スリランカ(3カ月), 1983年フランス(3カ月), 1985年ベトナム(1年3カ月の予定)などに赴いた。

6. (1) 「洪徳均田例に関する史料紹介(1)」『東南アジア——歴史と文化』3, 1973; 4, 1974.

(2) 「永盛均田例の周辺」『東洋学報』56(2・3・4), 1975.

(3) 「ヴェトナム中世社数の研究」『東南アジア——歴史と文化』5, 1975.
(4) 「永盛均田例の研究」『史学雑誌』85(7), 1976.
(5) 「19世紀初期ヴェトナム村落内土地占有状況の分析——嘉隆4年山南下鎮地簿を中心として」『東南アジア——歴史と文化』6, 1976.
(6) 「嘉隆均田例の分析」『東南アジア研究』14(4), 1977.
(7) 『東南アジア現代史 III ヴェトナム・カンボジア・ラオス』(共著) 山川出版社, 1977.
(8) 「19世紀初期ベトナム村落内土地占有状況の分析再論」『東南アジア——歴史と文化』7, 1977.
(9) 「黎朝下ヴェトナム村落における漂散農民の分析(I)」上・下,『東南アジア研究』15(4); 16(1), 1978.
(10) 「雄田問題の整理——古代紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』17(1), 1979.
(11) 「10世紀紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』17(4), 1980.
(12) 「李朝期(1010—1225)紅河デルタ開拓試論——デルタ開拓における農学的適応の終末」『東南アジア研究』18(2), 1980.
(13) 「明命均田例の周辺」『東洋史研究』39(3), 1980.
(14) 「糧田制の研究——19世紀ヴェトナムにおける兵士職田の成立」『南方文化』8, 1981.
(15) 「18世紀および19世紀初期紅河デルタにおける流散村落の研究」『東南アジア研究』20(2), 1982.
(16) 「東・東南アジア水稲社会における割地制の分布と展開」渡部忠世(編)『南西諸島農耕における南方的要素』(科学研究費報告書) 東南アジア研究センター, 1982.
(17) 『中国江南の稲作文化——その学際的研究』(共編)日本放送出版協会, 1984.
(18) 「ベトナム(近・現代)」島田虔次他(編)『アジア歴史研究入門5』同朋舎, 1984.

五十嵐忠孝

1. 東京大学医学部, 1970.
2. 東京大学保健学修士, 1972.
3. 人類生態学
4. (1) 小人口学
   (2) 栄養と生業機構
5. 1975年, 東京大学医学部保健学科助手に採用される。1982年, 群馬大学医学部助教授に昇任, 1984年, 東南アジア研究センターに配置換となり, 現在に至る。

   1970～73年, トカラ列島でヒトの個体群生態学的調査, 1974～75年, 韓国の一農村で人口移動の調査, 1978年以降, インドネシア西ジャワ州のスンダ人村落で小人口学, 栄養と生業機構に関する調査などに従事する。
6. (1) "Change in Daily Activity Patterns during the Ramadan in an Islamic Society," *Proceedings of the Second International Symposium on Asian Studies, 1980, Vol. II*, Asian Research Service, Hong Kong, 1981.
   (2) 「個人年齢の推定方法に関する若干の覚え書き——西部ジャワ・スンダ人村落での調査から」『東南アジア研究』20(2), 1982.
   (3) "Seeking the Dates of Birth of Children: An Age-Estimation Method that Combines Dental Age with Indigenously Expressed "Time of Birth" for Use in Priangan, West Java," *Proceedings of the Fourth International Symposium on Asian Studies, 1982, Vol. III*, Asian Research Service, Hong Kong, 1983.
   (4) 「漁撈と農耕の比較生態——西部ジャワ・プリアガン地方での調査から」大塚柳太郎(編)『生態人類学』至文堂, 1983.

(5) "Locality-Finding in Relation to Fishing Activity at Sea," in Béla Gunda (ed.), *The Fishing Culture of the World: Studies in Ethnology, Cultural Ecology and Folklore*, Akadémiai Kiadó, Budapest, 1984.

(6) 『インドネシア人類生態学調査集成』(共編)日産科学振興財団, 1984.

(7) 「西ジャワ・プリアガン高地における水稲耕作——若干の人類生態学的観察」『農耕の技術』7, 1984.

(8) 「西ジャワ・プリアガン高地の食糧資源と人口」小石秀夫・鈴木継美(編)『栄養生態学』恒和出版, 1984.

(9) 「インドネシアの人口, 出生, 死亡」『医学のあゆみ』132, 1985.

(10) *Human Ecological Survey in Rural West Java in 1978 to 1982: A Project Report*, (共編著) Nissan Science Foundation, Tokyo, 1985.

片山　裕

1. 京都大学法学部, 1973.
2. 京都大学法学修士, 1975.
3. 政治学
4. フィリピン官僚制
5. 1978年, 京都大学法学部助手に採用される。1981年, 東南アジア研究センター助手に配置換, 現在に至る。

この間, 1982～83年, フィリピンにて二次にわたりバランガイ制度の実態調査。1984年, 同じくフィリピンにおいて官僚制の実態調査を行う。現在, フィリピンに滞在し, 官僚制の調査研究に従事している。

6. (1) "Technocrats and Imelda Marcos—One Aspect of the Martial Law Regime in the Philippines," in K. Tsuchiya (ed.), "*States*" *in Southeast Asia: From "Tradition" to "Modernity"*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.

自然系

渡部　忠世

1. 京都大学農学部, 1949.
2. 農学博士, 1962.
3. 熱帯作物学
4. (1) アジア稲作の展開
   (2) 稲作文化
   (3) 主食の構造
5. 1967年, 鳥取大学農学部教授に就任, 1972年, 京都大学農学部教授に配置換, 1979年, 東南アジア研究センターに教授として移り, 1985年まで所長を兼任する。1981年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻教授を兼任, 現在に至る。

1963年以降, 20回余にわたって東南アジア諸国等へ調査。

6. (1) *Glutinous Rice in Northern Thailand*, Yokendo, 1967.
   (2) 『食用作物学概論』(共著)農山漁村文化協会, 1977.
   (3) 『稲の道』日本放送出版協会, 1977.
   (4) 『アジア稲作の系譜』法政大学出版局, 1983.
   (5) 『南島の稲作文化』(共編著)法政大学出版局, 1984.

高谷　好一

1. 京都大学理学部, 1956.
2. 京都大学理学博士, 1963.
3. 自然地理学
4. 東南アジアの自然環境と土地利用
5. 1967年, 東南アジア研究センターに助手として採用され, 同年, 助教授, 1975年教授に昇任。1981年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻教授を兼任, 現在に至る。

過去の研究・調査は, すべて自然地理と農業を対象としてきたが, 主な海外調査には次の

ものがある。1966～67年タイ中央平原，1968年インド東岸，1968～69年タイ中央平原，1970～71年ミシシッピー，アマゾン，ナイル，チグリス・ユーフラテス等のデルタ，1972年地中海水田地帯，1973年イラワジ・デルタ，1974年東北タイ，1975年ネパール，1976年ビルマ，1978年フィリピン，同年スマトラ，1980～81年スラウェシ，1982～83年スリランカ，1984年スマトラ。

6.(1) 「水田の景観学的分類試案」『農耕の技術』1，1978.

(2) 「南スマトラ，コムリン川流域の稲作景観」『東南アジア研究』17(3)，1979.

(3) 「チャオプラヤ・デルタの開拓」『東南アジア研究』17(4)，1980.

(4) 「スマトラの小区画水田」(共著)『農耕の技術』4，1981.

(5) 「パンカジェネ河流域の土地利用」『東南アジア研究』20(1)，1982.

(6) 「南島の稲作とその歴史・生態学的背景」渡部忠世(編)『南西諸島農耕における南方的要素』(科研費報告書)，1982.

(7) *Chao Phraya Delta of Thailand*; *Asian Rice-Land Inventory: A Descriptive Atlas, No. 1*, CSEAS, Kyoto University, 1982.

(8) 『熱帯デルタの農業発展』創文社，1982.

(9) 「ふたつの小区画水田」『季刊民族学』19，1982.

(10) 「南スラウェシのサゴ生産」『東南アジア研究』21(2)，1983.

(11) "Agricultural Transformation in Maningamuwa, a Village in Dry-zone Sri Lanka," (共著)『東南アジア研究』22(2)，1984.

(12) 「サゴヤシ湿地の生活」『グリーン・パワー』12，1984.

(13) 「東南アジアの自然」大林太良(編)『東南アジアの民族と歴史』山川出版，1984.

(14) 「"南島"の農業基盤」渡部忠世・生田滋(編)『南島の稲作文化』法政大学出版局，1984.

(15) "Geomorphology, Hydrology and Rice Cultivation in the Chao Phraya Delta of Thailand," *JARQ*, 18(3), 1985.

(16) 『東南アジアの自然と土地利用』勁草書房，1985.

海田　能宏

1. 京都大学農学部，1962.
2. 京都大学農学博士，1970.
3. 熱帯農業水文学
4.(1) 農業発展の水文環境的基盤

(2) アジア農村開発論

5. 1967年，京都大学助手（農学部）に採用され，1969年，東南アジア研究センターへ配置換。1974年同助教授，1984年同教授に昇任。同年から京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻教授を兼任。

1969年以降，水文環境，農業水利，農業生態などに関する現地調査をつづけており，それらは，1969～70年タイ(約10カ月)，1973年ビルマ（1カ月），1973年タイ・インドネシア(2カ月)，1974年ベトナム・メコンデルタ(2回3カ月)，1978年インドネシアの南スマトラ(2カ月)，1979年フィリピンのルソン平野(2カ月)，1980年フィリピンのルソン平野など（1カ月），1980，81年タイ（2回2カ月），1981年東北タイ村落定着調査(5カ月)，1983～84年再び東北タイ村落定着(13カ月)，1985年バングラデシュ農業・農村開発基礎調査の準備（2回1カ月）などである。また，1971～72年アメリカ合衆国カリフォルニア大学（リバーサイド校）にて水資源計画学の研修(約13カ月)，1974～77年の3年間は国連メコン委員会において，メコン河流域の水資源と農業開発計画に関する調査・研究に従事した。

6. (1) 「かんがい排水の現状と展望」石井米雄(編)『タイ国，ひとつの稲作社会』創文社，1974.

(2) "Pioneer Settlement and Water Control Development in the West Bank Tract of the Lower Chao Phraya Delta—Water Conditions in the Deltaic Lowland Rice Fields (II)," 『東南アジア研究』11(3)，1974.

(3) "Hydrography of Rice Land in the Vietnamese Part of the Mekong Delta," 『東南アジア研究』12(2)，1974.

(4) 「メコンデルタ稲作農業の自然環境とデルタの開発構図」『東南アジア研究』13(1)，1975.

(5) "Agro-hydrologic Regions of the Chao Phraya Delta," in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, 1977.

(6) *Pa Mong Downstream Effects on Hydrology and Agriculture in the Democratic Kampuchea—Pa Mong Optimization and Downstream Effects Study*, Working Paper No. 6, Report of Mekong Secretariat, MKG 41, 1976.

(7) *Pa Mong Optimization and Downstream Effects Study, Main Report*, Reportof Mekong Secretariat, MKG 45 Rev. 1, 1978.

(8) "Effect of Mekong Mainstream Flood Regulation on Hydrology and Agriculture in the Cambodian Lowland (I): Rice Culture," 『東南アジア研究』16(4)，1979.

(9) 特集「南スマトラ」『東南アジア研究』17(3)，1979.

1. 南スマトラの民族と自然：南スマトラの自然環境区分
2. 地域の診断と計画構想：南スマトラの農業変革の動向
3. 同：コムリン・オガン川流域における地域開発の模索（共著）

(10) 「メコンをデザインする」松田松二(編)『自然とむすぶ文化』共立出版，1980.

(11) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*, First Interim Report, (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1983.

(12) 『淀川農業水利史』農林水産省近畿農政局淀川水系農業水利調査事務所(編)，農業土木学会，1983.

(13) "Climate and Agricultural Land Use in Thailand," in M. M. Yoshino (ed.), *Climate and Agricultural Land Use in Monsoon Asia*, University of Tokyo Press, 1984.

(14) *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand; Asian Rice-Land Inventory: A Descriptive Atlas, No. 2*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.

(15) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*, Second Interim Report, (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1985.

(16) "Hydrology of Rice Land," in *Soil Problems in Rice Based Cropping Systems*, International Rice Research Institute, 1985.

福井　捷朗

1. 京都大学農学部，1961.
2. 京都大学農学博士，1974.
3. 農業生態
4. (1) 東北タイ，ドンデーン村の学際的総合研究
   (2) 気候変動と農業
5. 1964～69年，タイ国カセサート大学及び農

務省米穀局にて稲作を研究。1967年，京都大学東南アジア研究センター助手に採用される。1969年同農学部助手，1974年同東南アジア研究センター助手。1975年同助教授に昇任，現在に至る。1982年より農学研究科熱帯農学専攻助教授を兼任。

1972年タイ及びジャワ，1974年メコンデルタ，1976年イラワディデルタ及びサラワク，1977年西マレーシア，1979年スマトラ及びルソン島，1979年，1980年タイにおいて，それぞれ数カ月の現地調査に従事する。1975年，オランダ農科大学にて研究。1981～82年及び1983年，東北タイ村落定着調査に従事する。

6. (1) 「水稲高収性品種の普及と栽培環境」市村真一(編)『東南アジアの自然・社会・経済』創文社，1974.
(2) 「気候変動と湿潤熱帯の農業」『科学』49(3)，1979.
(3) 「サラワク低地の土地利用と未利用」『東南アジア研究』17(4)，1980.
(4) 「火耕水耨の論議によせて」『農耕の技術』3，1980.
(5) 「アジア稲作圏にはなぜ畑作が少ないのか」『国際農林業協力』5(3)，1982.
(6) "Variability of Rice Production in Tropical Asia," in *Drought Resistance in Crops with Emphasis on Rice*, International Rice Research Institute, 1982.
(7) "Ch. 9. Present Situation of Upland Farming in Thailand" and "Ch. 10. General Discussion and Conclusion," in K. Kyuma *et al.* (eds.), *Shifting Cultivation*, 1983.
(8) 「東南アジア低湿地の土地利用」『東南アジア研究』21(4)，1984.
(9) *An Interim Report/A Rice-growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*, (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1983.
(10) *The Second Interim Report/A Rice-growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand*, (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1985.

古川　久雄

1. 京都大学農学部，1963.
2. 京都大学農学博士，1973.
3. 熱帯稲作地理
4. (1) 東南アジア低湿地の利用と保全
(2) アジア伝統農業の生態構造
(3) 熱帯土壌生成
5. 1967年，京都大学農学部助手に採用される。1978年，東南アジア研究センター助教授に昇任，現在に至る。1981年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻助教授を兼任。

1963年以降，以下の諸国にて水田土壌の調査を行う；1963～64年，タイ，1964～65年，タイ，マレーシア，1970年，インドネシア(ジャワ)，1978年，韓国。さらに，1978年，南スマトラ，1979年，ジャワ島，1980～81年，南スラウェシ，1983年，スマトラ東岸低湿地帯，1984年，リアウなど，インドネシア各地で農業景観の変貌等について調査に従事。1981～82年にはIRRIにて，カガヤン渓谷における多毛作化の調査を行う。また，1982年には南インド，スリランカでも農業景観の変貌について調査を実施した。

6. (1) 「ジャワ島土壌の物理性――強い硬盤について」『土壌の物理性』25，1971.
(2) 「水田土壌コンシステンシーの一局面」『近代農業における土壌肥料の研究』3，1972.
(3) 「安満遺跡土層断面の土壌学的検討」『安満遺跡』京都大学文学部，1973.
(4) 「ニューアイルランド島における土壌地理的観察」『東南アジア研究』11(4)，1974.

(5) 「近畿地方低地部における土壌の分布則および分布単位に関する事例研究」『ペドロジスト』20, 1976.

(6) "Chemical, Mineralogical and Micro-Morphological Properties of Glaebules in Some Tropical Lowland Soils," (共著)『東南アジア研究』14(3), 1976.

(7) "Glaebules in Some Tropical Lowland Soils and the Implications on Soil Forming Process," (共著) *Proc. CLAMATROPS*, 1977.

(8) 『カラースライド集・日本の土壌』(共著) 農山漁村文化協会, 1977.

(9) "Geochemical Study of the Redistribution of Elements in Soil. Part 1. Evaluation of Degree of Weathering of Transported Soil Material by Distribution of Major Elements among the Particle Size Fraction and Soil Extracts," (共著) *Geochimica Cosmochimica Acta*, 41, 1977.

(10) 「土壌中主要12元素の螢光X線迅速定量法」『日本土壌肥料学会』49(2), 1978.

(11) "Manual for Field Soil Records," *Discussion Paper, CSEAS*, No. 103, 1979.

(12) "Computer-Based Soil Data Management System (COSMAS). I, II," (共著) *Soil Sci. Plant Nutr.*, 27(4), 1981.

(13) 「南スラウェシの稲作景観」『東南アジア研究』20(1), 1982.

(14) 「ルソン島の陸稲栽培」『農耕の技術』5, 1983.

(15) 「踏耕の系譜」(共著)『南西諸島農耕における南方的要素』東南アジア研究センター, 1982.

(16) "Land Use and Soil Catena in Jeneponto Area of South Sulawesi,"『東南アジア研究』20(4), 1983.

(17) 「フィリピンの農業と農民」『国際農林業協力』6(2), 1983.

(18) 「愛知川扇状地の土壌層序」I, II (共著)『ペドロジスト』27, 1983; 29, 1985.

(19) 「東南アジア低湿地の地形」『東南アジア研究』21(4), 1984.

(20) 「バタンハリ川流域低湿地の農業景観. I. 地形と層序」(共著)『東南アジア研究』23(1), 1985.

田中　耕司

1. 京都大学農学部, 1969.
2. 京都大学農学修士, 1972.
3. 作物学
4. (1) 熱帯アジアにおける水田・畑の伝統的作付体系
   (2) インドネシアの移住民の農業適応
5. 1973年, 京都大学農学部助手に採用される。1979年, 東南アジア研究センター助手に配置換, 1984年, 助教授に昇任, 現在に至る。
   この間, 1974年, ビルマにおいて栽培稲の変遷の調査, 1978〜79年, ビルマ, アッサムにおいて野生イネの分布と栽培イネの生態型分化の調査に従事。1979年, インド, スリランカにおいてクロッピングシステム, 作物生産, 食糧構造の比較研究調査を行う。1980〜85年にかけて3次にわたり, インドネシアにおいて熱帯島嶼域の人の移動に関わる環境形成過程の研究調査に参加する。
6. (1) 「ビルマ中央平原の作物分布」『東南アジア研究』14(2), 1976.
   (2) 「すぐれた作付方式論『会津農書』」飯沼二郎(編)『近世農書に学ぶ』日本放送出版協会, 1976.
   (3) 「学者の農書『草木六部耕種法』」同上書, 1976.
   (4) "Relation between Root Oxidizing Power and Resistance to Iron Toxicity in Rice," (共著)『近畿作物・育種談話会報』21, 1977.

(5) 『日本農書全集　第7巻』(校注,現代語訳，解題）農山漁村文化協会，1979.

(6) 「伝統稲作の生態的適応――ビルマの乾季稲作の諸例」(共著）渡部忠世（編）『東南アジア世界』創文社，1980.

(7) 「ビルマにおける栽培稲の変遷と稲作の展開」(共著）『東南アジア研究』19(2)，1981.

(8) "Traditional Cropping Systems of Small Farmers in the Central and Southern Deccan Plateau Area," (共著）『東南アジア研究』19(2)，1981.

(9) 「近世農書にあらわれた作物の前後作関係と作付集積」岡光夫・三好正喜(編）『近世の日本農業』農山漁村文化協会，1981.

(10) "Agricultural Adaptation by Spontaneous Migrants to Northern Kabupaten Luwu," in Mattulada and N. Maeda (eds.), *Villages and Agricultural Landscape in South Sulawesi*, CSEAS, Kyoto Univ., 1982.

(11) 「ビルマの農業と農民」『国際農林業協力』5(1)，1982.

(12) 「南スラウェシ州ルウ県北部への人の移動と水田農耕の技術変容」『東南アジア研究』20(1)，1982.

(13) 「踏耕の系譜」(共著）渡部忠世（編）『南西諸島農耕における南方的要素』(科研報告書)，東南アジア研究センター，1982.

(14) 「古座町田原の畦なし田」『農耕の技術』5，1982.

(15) "Potential Productivity of Rice in the Low-Country Wet Zone of Sri-Lanka," (共著) *JARQ*, 17(2), 1983.

(16) 「与那国島の水田立地と稲作技術――東南アジア島嶼部稲作との関連において」『東南アジア研究』21(3)，1983.

(17) "Agricultural Adaptation among Bugis Spontaneous Migrants—A Case Study in Northeastern Kabupaten Luwu," in N. Maeda and Mattulada (eds.), *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.

(18) 「ジャワの耕地利用と食用作物栽培」栗原浩教授定年退官記念出版会(編）『耕地利用と作付体系』大明堂，1984.

(19) 「東南アジア島嶼部における耕地利用と作付体系」『温・熱帯共通畑作物のクロッピングシステムに関する研究』（科研報告書)，1984.

内田　晴夫

1. 京都大学農学部，1978.
2. 京都大学農学修士，1980.
3. 灌漑排水学
4. (1) バングラデシュ農業開発史
   (2) バングラデシュの伝統的灌漑システム
   (3) バングラデシュにおける水稲作生産量の変動解析
5. 1982年，東南アジア研究センター助手に採用され，現在に至る。灌漑排水学の分野において，地形起伏のシミュレーションに関する基礎的研究（博士論文）をまとめた。研究対象地域としてベンガルデルタ（バングラデシュ）を選び，1984年10月からは，バングラデシュ稲研究所客員研究員として滞在するかたわら，水文環境や灌漑排水方式，水資源開発方式等，農業と水問題とのかかわりに関する現地調査を行なっている。近く，バングラデシュの内陸低湿地域の農村の定着調査に着手する予定。
6. (1) 「タイ国における水稲生産量の変動に関与する自然的要因の分析」『農業土木学会誌』49(5)，1981.
   (2) 「二次元空間系列を対象にした地形起伏のシミュレーションに関する基礎的研究」『農業土木学会論文集』112，1984.
   (3) 「三次元空間系列を対象とした地形起伏

のシミュレーションに関する基礎的研究」『農業土木学会論文集』114，1984.

(4) 「都市化流域における有効降雨の算定一京都市竹田川流域を対象として」『農業土木学会誌』52(12)，1984.

客員教官

口羽　益生

1. 龍谷大学文学部，1953.
2. 京都大学文学修士，1957.
   コーネル大学 M. A., 1962.
3. 文化人類学
4. (1) 東南アジアにおける宗教と社会
   (2) 東北タイ村落の社会構造と宗教
5. 1960年，龍谷大学文学部助手に採用され，1970年，同大学教授に昇任，現在に至る。この間，同志社大学，奈良女子大学，京都大学などで非常勤講師として講義を担当する。1980～82年，および84年より現在まで東南アジア研究センター客員教授を兼ねる。

   1964～76年にかけて，4次にわたりマレーシアにて農村調査に従事。1978年にはジャワ，フィリピンにて，1981年および83年に東北タイにて農村調査を行う。
6. (1) "Paddy Farming and Social Structure in a Malay Village," *The Developing Economies*, 2(1), 1967.
   (2) 「水稲作農村パダンララン――その自然条件と二期作化について」『東南アジア研究』9(4)，1972.
   (3) 『マレー農村の研究』(共編著) 創文社，1976.
   (4) "Continuity and Change in Traditional Cultures," in *Dialogue, Southeast Asia and Japan, Sympsium on Cultural Exchange*, The Japan Foundation, 1977.
   (5) 「米の二期作に伴うパダンララン村の変貌と継続性」『東南アジア研究』15(3)，1977.
   (6) *Three Malay Villages: A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia* (共編著)，University Press of Hawaii, 1979.
   (7) "Socio-Economic Changes of a Malay Padi Growing Community in Kedah,"『東南アジア研究』16(2)，1978.
   (8) *A Comparative Study of Paddy-Growing Communities in Southeast Asia and Japan* (Toyota Foundation, Project Report III-006) (共編)，Department of Sociology, Ryukoku University, 1979.
   (9) 「西表島祖納における農耕儀礼」渡部忠世（編）『南西諸島農耕における南方的要素』東南アジア研究センター，1982.
   (10) 「屋敷地共住集団再考」(共著)『東南アジア研究』21(3)，1983.
   (11) 「19世紀末マラヤにおける英国の内政干渉と文化摩擦――理事官バーチの暗殺をめぐって」石井米雄（編）『差異の事件誌』巌南堂，1984.

二宮　正司

1. 大阪外国語大学ロシア語学科，1970.
2. 和歌山大学経済学修士，1972.
3. 計量経済学・地域経済論
4. (1) タイの経済計画と経済開発政策
   (2) タイの経済開発政策評価モデル
   (3) 地域経済開発と技術移転
5. 名古屋学院大学経済学部助教授を経て，1981年，岡山大学教育学部助教授に着任，現在に至る。1982年より岡山商科大学非常勤講師として地域経済論を担当する。1984年より東南アジア研究センター客員助教授を併任する。

   この間，1982～83年，津山圏域における異業種間技術交流に関する調査検討委員会委員長として委託調査研究に従事。1984～85年，文部省在外研究員としてタイ経済の計量分析

に関する調査研究に従事するとともに，タマサート大学経済学部大学院客員教員として計量経済学を講義する。1985年，再び文部省在外研究員として経済計画と開発政策の東南アジア的特性について，主としてタイで調査研究を実施している。

6.(1) 「Stepwise Chow Test」『季刊理論経済学』28(1)，1977.

(2) 「構造変化とその転換点の検出方法」『名古屋学院大学論集』13（2・3・4合併号)，1977.

(3) 「Stepwise Chow Test の計量マクロ関数への適用」『名古屋学院大学論集』14(1)，1977.

(4) 『経済分析の理論と方法（D. R. クルーム，J. N. ロビンソン著)』（共訳）晃洋書房，1977.

(5) 「Stepwise Chow Test のマクロ経済モデルへの適用——戦後日本経済の構造変化」『名古屋学院大学論集』15(4)，1979.

(6) 『スーツ統計学（D. B. スーツ著)』（共訳）晃洋書房，1979.

(7) 「鉄鋼業立地に伴う社会資本の推計——ケース・スタディー」『名古屋学院大学論集』17(2)，1980.

(8) 「鉄鋼業の社会資本」『名古屋学院大学論集』17(2)，1980.

(9) 『日本の鉄鋼業』（共著）有斐閣，1981.

(10) 「修得語彙数の推定について」『岡山大学教育学部研究集録』60，1982.

(11) 『津山地域地場産業振興ヴィジョン』（共著）岡山県商工部，1982.

(12) 『県南（岡山・倉敷）地域地場産業振興ヴィジョン』（共著）岡山県商工部，1983.

(13) 『津山圏域における異業種間交流に関する調査』（財）産業研究所，1983.

(14) 「異業種間技術交流の概念，現状および課題」『研究報告書』（岡山大学産業経営研究会）17，1983.

(15) 『国際化の進展と岡山県経済』（共著）（財)岡山経済研究所，1983.

（2） 資 料 部

鈴木 静夫

1. 南山大学文学部，1957.
2. 南山大学文学士.
3. 英文学
4.(1) フィリピン現代政治史

(2) 東南アジアの現代政治

5. 1972～76年，毎日新聞社バンコク支局長，1976～78年，同社外信部副部長を経て，1979年，東南アジア研究センター助手に採用される。1985年，同助教授に昇任，現在に至る。

6.(1) 『愛憎 変革の東南ア』毎日新聞社，1977.

(2) 『神聖国家日本とアジア——占領下の反日の原像』（共編著）勁草書房，1984.

(3) 『アキノ家三代——フィリピン民族主義の系譜』（訳著）井村文化事業社，1985（近刊)．（原著. Joaquin, Nick. 1983. The Aquinos of Tarlac—An Essay on History As Three Generations. Manila: Cacho Hermanos.).

北野 康子

1. 長崎大学教育学部，1962.
2. ハワイ大学 M. L. S., 1971.
3. 図書館学
4.(1) 東南アジア研究資料の目録情報

(2) ライブラリー・オートメーション

5. 1966～68年，East-West Center 奨学生，1969～71年，ハワイ大学大学院にて図書館学を修める。1971～77年，貿易研修センター情報資料室勤務を経て，1977年，東南アジア研究センター資料部図書室に助手として着任，現在に至る。

6. (1) *The Bibliography of Bibliographies of the Pacific*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1969.

(2) *United Nations Documents on the Trust Territory of the Pacific Islands*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1971.

(3) 「発展途上国の経済ナショナリズムと経済統合に関する文献目録」(共編)『アジア経済資料月報』20(3)，1978.

(4) *Women in Southeast Asia: A Bibliography, for the National Women's Education Center, Japan*, Kyoto, 1979.

(5) 『図書館ネットワークのしくみ：WLN のシステム，Washington Library Network』(共編) ライブラリー・オートメーション研究会，京都，1982.

(6) 「インドネシアにおける図書館システム」(訳)『図書館界』35(4)，1983.

柴山　守

1. 立命館大学理工学部，1970.
2. 立命館大学工学士.
3. 情報工学
4. (1) 言語情報処理

(2) 計算機システム性能評価

5. 1970年，京都大学大型計算機センターに文部技官として採用される。1976年より同センター研究開発部兼務となり，日本国内大学間コンピューターネットワークおよび計算機システムの性能評価に関する研究・開発に従事する。システム運用掛長，システム管理掛長を経て，1982年，東南アジア研究センター資料部計算機室に助手として着任，現在に至る。

この間，1984年に京都産業大学計算機科学研究所，1985年に大阪産業大学経営学部の非常勤講師として講義を担当する。また，1984，85年の二次にわたり，インドネシア国家開発庁のコンピューター・プログラム整備のためインドネシアに派遣される。

6. (1) 『PL/I 基礎編』(共著)コロナ社，1982.

(2) 『PL/I 応用編』(共著)コロナ社，1985.

(3) 「OS カタログへのアクセスの解析と効率改善について」『情報処理学会論文誌』22(2)，1981.

(4) 「MSS を用いた情報検索の応答時間の解析」『情報処理学会論文誌』24(5)，1983.

(5) 「ディスク・キャッシュの効果に関する一考察」電子通信学会 電子計算機研究会，EC 81-5, 1981.

(6) 「大容量記憶システムの利用特性と動作解析」情報処理学会 計算機システムの解析と制御研究会，1981.

(7) "An Econometric Link System for the East and Southeast Asian Countries, Japan and the United States,"『東南アジア研究』22(3)，1984.

〔付〕旧職員名簿

〔教　官〕

本岡　武	教授(逝去)	1965. 6—1978. 4
飯島　茂	助手	1965. 7—1967. 3
荻野　和彦	助手	1965. 7—1966. 5
久馬　一剛	助教授・教授	1967. 8—1978. 4
笠原(海田)礼子	助手	1967.12—1969. 4
瀬戸口烈司	助手	1967.12—1973. 4
橋本(谷本)由生枝	助手	1969. 6—1978. 6
安場　保吉	教授	1969. 7—1980. 5
辻井　博	助手	1969. 9—1977. 4
三谷　恭之	助教授	1969. 9—1982. 3
水野　浩一	助教授・教授(逝去)	1970. 4—1979.10
小林　和正	教授	1975. 3—1982. 4
山田　勇	助手	1975. 5—1980. 4
山影　進	助手	1976.12—1980. 4
安成　哲三	助手	1977. 4—1982. 3
安田　聖	助手	1978. 5—1982.11
松下敬一郎	助手	1980. 7—1985. 9
高山　晟	教授	1982. 7—1985. 8

〔事務官〕

藤山　京次	事務主任	1965. 6—1970. 5
山本　久	事務官	1965. 6—1968. 4
森　健二	〃	1965. 7—1971. 3
森本　初	〃	1968. 4—1972. 6
井上　清史	〃	1968. 4—1974. 6
西野　清一	〃	1968. 5—1970. 8
砂川　繁一	〃	1969. 9—1978.11
加藤　一郎	事務主任・事務掛長	1970. 5—1972. 3
木田　康夫	事務官	1970. 9—1980. 3
河合　文平	事務長	1971. 4—1974. 3
西野　博	会計掛長	1972. 4—1973. 6
文字　健二	庶務掛長	1972. 4—1975. 3
川合　教博	会計掛長	1973. 6—1976. 3
森田　修	事務長	1974. 4—1977. 3
吉田　孝弘	庶務掛長	1975. 4—1979. 3
西村　朗	会計掛長	1976. 4—1978. 3
人見　輝雄	事務長	1977. 4—1980. 3
渡辺　孝三	会計掛長	1978. 4—1981. 3
坂本　猛司	事務官	1978.12—1981. 6
村上　嗣郎	庶務掛長	1979. 4—1982. 3
藤田　欣也	事務長	1980. 4—1983. 3
紺谷　優	事務官	1980. 4—1983. 6
川崎　浩次	会計掛長	1981. 4—1983. 3
藤川　嘉美	事務官	1981. 6—1981.11
堀田　宏二	庶務掛長	1982. 4—1985. 3
尾原　弘剛	会計掛長	1983. 4—1984. 3
松村　一範	事務長	1983. 4—1985. 3
伊東　成治	事務官	1983. 6—1985. 6
森田　賢	会計掛長	1984. 4—1985. 3

〔事務補佐員〕

重松(友杉)茉莉子	1966. 2—1966. 4
笠原(海田)礼子	1966. 2—1967.11
小松(百々)チエ子	1966. 2—1971. 4
奥田(田上)翠	1966. 4—1968. 3
井上　孝子	1967. 4—1967. 9
橋本(谷本)由生枝	1967. 4—1969. 4
山崎　和子	1968. 4—1969. 8
今中(海田)陽子	1969. 4—1974.10
新宮(原田)敬子	1969. 4—1971. 3
堀(平井)倭佐子	1964. 4—1977. 6
市古(山内)泰子	1970. 4—1973. 1
葛城(村田)登代子	1970. 4—1971. 5
堀江まち子	1971. 5—1973. 6
辻　典子	1971. 6—1972. 1
内木十起子	1972. 4—1973. 9
高橋(長坂)みどり	1972. 4—1973. 5
伊豆蔵(小牧)裕子	1973. 4—1974.10
馬場(安成)登起子	1973. 5—1978. 3
高橋(河合)春美	1973. 6—1974. 3
西垣(板垣)真子	1973. 7—1975.10
石川(水野)はるな	1974.11—1977.10
上田(江森)真理子	1975. 4—1977. 3
井上由紀栄	1975. 4—1977.10
津田(小谷)充代	1975.11—1979. 3
作野(神野)加代子	1977. 7—1985. 2
金谷(高桑)ちはる	1979. 4—1984. 4

第5章 出 版 目 録

1985年10月現在で，センターが刊行した東南アジア研究叢書（和文，英文），研究報告書シリーズ，『東南アジア研究』特集報文，リプリント・シリーズ，ディスカッション・ペーパーの一覧を掲げる。なお，前述したように，『東南アジア研究』所収の論文等の総目録は『東南アジア研究』別冊（23巻5号）に一括掲載する予定である。

1. 東南アジア研究叢書

A. 和文叢書

1. 棚瀬　襄爾.　1966.『他界観念の原始形態』
2. 矢野　暢.　1968.『タイ・ビルマ現代政治史研究』
3. 本岡　武.　1968.『東南アジア農業開発論』
4. 坪内　良博；坪内　玲子. 1971.『離婚』創文社.
5. 飯島　茂.　1971.『カレン族の社会・文化変容』創文社.
6. シュトルツ.　1974.『ビルマ―地誌・歴史・経済』野上裕生（訳）. 創文社.
7. 市村　真一 編.　1974.『東南アジアの自然・社会・経済』創文社.
8. 石井　米雄 編.　1975.『タイ国―ひとつの稲作社会』創文社.
9. 石井　米雄.　1975.『上座部仏教の政治社会学』創文社.
10. 本岡　武.　1975.『インドネシアの米』創文社.
11. 市村　真一 編.　1975.『東南アジアの経済発展』創文社.
12. 口羽；坪内；前田 編. 1976.『マレー農村の研究』創文社.
13. 西原　正 編.　1976.『東南アジアの政治的腐敗』創文社.
14. エクスタインほか 編. 1979.『中国の経済発展』市村真一(監訳). 創文社.
15. 渡部　忠世 編.　1980.『東南アジア世界―地域像の検証』創文社.
16. 水野　浩一.　1981.『タイ農村の社会組織』創文社.
17. 土屋　健治.　1982.『インドネシア民族主義研究―タマン・シスワの成立と展開』創文社.
18. 高谷　好一.　1982.『熱帯デルタの農業発展―メナム・デルタの研究』創文社.
19. 小林　和正.　1984.『東南アジアの人口』創文社.
20. 桜井由躬雄.　1985.『ベトナム村落の形成―村落共有田＝ゴンディエン制の史的展開』創文社.

B. 英文叢書

1. SATO, Takashi.　1966. *Field Crops in Thailand.* Kyoto: CSEAS.
2. WATABE, Tadayo.　1967. *Glutinous Rice in Northern Thailand.* Kyoto: CSEAS.

3. TAKIMOTO, Kiyoshi, ed. 1968. *Geology and Mineral Resources in Thailand and Malaya.* Kyoto: CSEAS.

4. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Thailand.* Kyoto: CSEAS.

5. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Malaya.* Kyoto: CSEAS.

6. MAEDA, Kiyoshige. 1967. *Alor Janggus, a Chinese Community in Malaya.* Kyoto: CSEAS.

7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1975. *The Economic Development of East and Southeast Asia.* Honolulu: University Press of Hawaii.

8. NISHIHARA, Masashi. 1976. *The Japanese and Sukarno's Indonesia: Tokyo-Jakarta Relation, 1951–66.* Honolulu: University Press of Hawaii.

9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Southeast Asia: Nature, Society and Development.* Honolulu: University Press of Hawaii.

10. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1977. *Paddy Soils in Tropical Asia.* Honolulu: University Press of Hawaii.

11. YOSHIHARA, Kunio. 1978. *Japanese Investment in Southeast Asia.* Honolulu: University Press of Hawaii.

12. ISHII, Yoneo, ed. 1978. *Thailand: A Rice-Growing Society.* Honolulu: University Press of Hawaii.

13. CHO, Lee-Jay; and KOBAYASHI, Kazumasa, eds. 1980. *Fertility Transition of the East Asian Populations.* Honolulu: University Press of Hawaii.

14. KUCHIBA, Masuo; TSUBOUCHI, Yoshihiro; and MAEDA, Narifumi. 1979. *Three Malay Villages: A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia.* Honolulu: University Press of Hawaii.

15. CHO, Lee-Jay; SUHARTO, S.; MCNICOLL, G.; and MAMAS, S. G. M. 1980. *Population Growth of Indonesia: An Analysis of Fertility and Mortality Based on the 1971 Population Census.* Honolulu: University Press of Hawaii.

16. ISHII, Yoneo. 1985. *Sangha, State, and Society: Thai Buddhism in History.* Honolulu: University Press of Hawaii.

2. 研究報告書シリーズ

研究報告書シリーズは，センターが単行本として出版したもので，シンポジウムの報告書，文部省科学研究費補助金による海外学術調査の報告書，その他の研究奨学金を受けて

行なった研究の報告書など，各種のものを含んでいる。1985年度からは，シリーズ番号をつけて，検索を容易にする予定である。既刊のものを以下に年度順にあげる。

1. KAWAGUCHI, Keizaburo, ed. 1965. *Rice Culture in Malaya*, Symposium Series No. 1.
2. INOKI, Masamichi, ed. 1966. *Japan's Future in Southeast Asia*, Symposium Series No. 2.
3. FUJIOKA, Yoshikazu, ed. 1966. *Water Resource Utilization in Southeast Asia*, Symposium Series No. 3.
4. HIGASHI, Noboru, ed. 1968. *Medical Problems in Southeast Asia*, Symposium Series No. 4.
5. 市村　真一編. 1975.『稲と農民』
6. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Preliminary Report on Role of Education in the Rural Development of Southeast Asia—Thailand and Malaysia—*.
7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1979. *Econometric Models of Asian Countries I*.
8. ICHIMURA, Shinichi ; and MIZUNO, Koichi, eds. 1979. *Ecology, New Technology, and Rural Development in Thailand and Malaysia* (with Special Reference to the Role of Education).
9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1980. *Econometric Models of Asian Countries II*.
10. TSUBOUCHI, Yoshihiro ; NASRLIDDIN, Iljas ; TAKAYA, Yoshikazu ; and RASJID, Hanafiah A., eds. 1980. *South Sumatra, Man and Agriculture*.
11. WATABE, Tadayo, ed. 1981. *Report of the Scientific Survey on Traditional Cropping Systems in Tropical Asia*, Part 1 : India and Sri Lanka, Part 2 : Indonesia.
12. MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds. 1982. *Villages and the Agricultural Landscape in South Sulawesi*.
13. TAKAYA, Yoshikazu ; and THIRAMONGKOL, Narong. 1982. *Chao Phraya Delta of Thailand* (Asian Rice-land Inventory: A Descriptive Atlas, No. 1).
14. 渡部　忠世編. 1982.『南西諸島農耕における南方的要素』
15. FUKUI, Hayao ; KAIDA, Yoshihiro ; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1983. *A Rice-Growing Village Revisited : An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (An Interim Report).
16. JAYAWARDENA, S. D. G. ; and MAEDA, Narifumi, eds. 1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Sri Lanka and South India*.
17. LUMPAOPONG, Bunyawart ; PINTHONG, Jitti ; CHALOTHON, Chavalit ; and KAIDA, Yoshihiro. 1984. *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand* (Asian Rice-land Inventory : A Descriptive Atlas, No. 2).

18. MATTULADA ; and MAEDA, Narifumi, eds.
1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia.*
19. TSUCHIYA, Kenji, ed. 1984. *"States" in Southeast Asia, from "Tradition" to "Modernity".*
20. FUKUI, Hayao ; KAIDA, Yoshihiro ; and KUCHIBA, Masuo, eds.
1985. *A Rice-Growing Village Revisited : An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report).

3. 『東南アジア研究』特集一覧

まとまりのある，いくつかの報文をあつめて，『東南アジア研究』の特集号として出版することがある。この特集報文は，シンポジウム，文部省科学研究費補助金による海外学術調査や，その他のまとまりのある共同研究の成果を発表するメディアになっている。『東南アジア研究』創刊以来の特集報文を以下に年代順にあげる。

1. 川口桂三郎編. 1965.『マラヤ稲作シンポジウム』(『東南アジア研究』2(3)特集)
2. 冨士岡義一編. 1966.『水資源利用に関するシンポジウム』(『東南アジア研究』3(4)特集)
3. 東　　昇編. 1967.『東南アジア医学シンポジウム』(『東南アジア研究』4(4)特集)
4. 川口桂三郎編. 1968.『東南アジア農業技術シンポジウム』(『東南アジア研究』5(4)特集)
5. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1974. *The Natural Environment and the Socio-Economic Behavior of Farmers in Thailand and Java—A Preliminary Summary Report on "Nature and Man Project" of Kyoto University Center for Southeast Asian Studies—.* (『東南アジア研究』12(3)特集)
6. 高谷　好一編. 1975.『メコンデルタの自然と農業』(『東南アジア研究』13(1)特集)
7. 矢野　　暢編. 1978.『近代日本の南方関与』(『東南アジア研究』16(1)特集)
8. FREDERICKS, M. L. J., ed. 1978. *Proceedings of the Seminar on the Problems of Rice-Growing Villages in Malaysia.* (『東南アジア研究』16(2)特集)
9. 水野浩一編. 1978.　『タイ特集』(『東南アジア研究』16(3)特集)
10. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1979. *Proceedings of the Asian Sub-Link Project Symposium.* (『東南アジア研究』17(2)特集)
11. 市村　真一編. 1979.『わが国における熱帯農業研究の課題』(『東南アジア研究』17(2)特集)
12. 坪内　良博編. 1979.『南スマトラ』(『東南アジア研究』17(3)特集)
13. 坪内　良博編. 1980.『東南アジア低地開拓史』(『東南アジア研究』17(4)特集)
14. 矢野　　暢編. 1980.『近代日本の南方関与（II）』(『東南アジア研究』18(3)特集)
15. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1981. *Green Revolution and Rural Development in Asia.* (『東南アジア研究』18(4)特集)
16. 小林　和正編. 1981.『人口』(『東南アジア研究』19(1)特集)

17. 江崎　光男編. 1981.『経済特集：貿易・直接投資と経済発展』(『東南アジア研究』19(3)特集)
18. 前田　成文編. 1982.『南スラウェシの村落と農業景観』(『東南アジア研究』20(1)特集)
19. 坪内　良博編. 1982.『東南アジアの人口—小林和正教授退官記念』(『東南アジア研究』20(2)特集)
20. 矢野　　暢編. 1983.『東南アジアにおける〈都市〉の諸様相』(『東南アジア研究』21(1)特集)
21. 土屋　健治編. 1984.『東南アジアの世界像』(『東南アジア研究』22(1)特集)
22. MAEDA, Narifumi, ed. 1984. *Transformation of the Agricultural Landscape.* (『東南アジア研究』22(2)特集)
23. ICHIMURA, Shinichi; and YOSHIHARA, Kunio, eds. 1985. *Japanese Management in Southeast Asia.* (『東南アジア研究』22(4)特集)
24. ICHIMURA, Shinichi; and YOSHIHARA, Kunio, eds. 1985. *Japanese Management in Southeast Asia.* (『東南アジア研究』23(1)特集)
25. 奥平龍二編.　1985.『19世紀ビルマの英国植民地化過程と社会変容』(『東南アジア研究』23(2) 特集)
26. 福井　捷朗編. 1985.『東北タイ・ドンデーン村』(『東南アジア研究』23(3)特集)

4. リプリント・シリーズ (*印は在庫なし)

社会科学

S-1* ICHIMURA, Shinichi. 1968. Postwar Japan in the World Economy. *Japanese Economy.*

S-2* 安場　保吉. 1969. 人口研究の意義と方法—経済発展論の立場から—.『経済史における人口』

S-3 FORREST, Matthew; and YOSHIHARA, Kunio. 1969. Japan's Dependence on Exports in contrast with That of Six Other Nations. *Hitotsubashi Journal of Economics* 10(1).

S-4* YOSHIHARA, Kunio. 1969. Long-Term Models of the Japanese Economy. *The Economic Studies Quarterly* 20(3).

S-5* YOSHIHARA, Kunio. 1969. Demand Functions: An Application to the Japanese Expenditure Pattern. *Econometrica* 37(2).

S-6 石井　米雄. 1970. 国家と宗教にかんする一考察—ラーマ1世における仏教の「擁護」—.『東南アジア研究』7(4).

S-7 矢野　　暢. 1970. 南タイにおける通婚圏の形成.『東南アジア研究』7(4).

S-8 TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1970. Changes in Fertility in Japan by Region: 1920-1965. *Demography* 7(2).

S-9* 石井　米雄; 坪内　良博. 1970. タイ国における出家行動の地域的変異についての一考察.『東南アジア研究』8(1).

S-10 KATSURA, Makio. 1970. An Outline of the Structure of the Akha Language (Part 1) —Introduction and Phonemics—.『東南アジア研究』8(1).

S-11 矢野　　暢. 1970. 南タイ農村民の村外居住体験について—タイ・イスラム村落におけるケース・スタディー—.『東南アジア研究』8(2).

S-12* ICHIMURA, Shinichi. 1970. The Challenge of the Rising Sun. *Quadrant* 14(6).

S-13* YASUBA, Yasukichi. 1971. A Revised Index of Industrial Production for Japan, 1905-1935.

Osaka Economic Papers 19(1/2).

S-14 矢野　暢. 1971. 南タイ農村の経済生活—タイ・イスラム村落での実態調査—.『東南アジア研究』8(4).

S-15 本岡　武. 1971. 東南アジア農業開発研究の方法と問題.『農業経済研究』42(4).

S-16 本岡　武. 1971. 東南アジア農業開発と農業教育.『近代農学論集』

S-17 YOSHIHARA, Kunio; FURUYA, Kenichi; and SUZUKI, Takao. 1971. The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index. *Journal of the American Statistical Association* 66(333).

S-18 ISHII, Yoneo. 1971. Seventeenth Century Japanese Documents about Siam. *Journal of the Siam Society* 59(2).

S-19 本岡　武. 1971. 農業地理学と発展途上国農業開発—応用地理学の一課題—.『人文地理学論叢』6月.

S-20 石井　米雄. 1971. 国家と宗教にかんする一考察（II)—スコータイにおける大寺派上座部仏教の受容をめぐる諸問題—.『東南アジア研究』9(1).

S-21 大野　徹. 1971. パガン，ピンヤ，インワ時代のビルマ人仏教徒の功徳.『東南アジア研究』9(1).

S-22* 水野　浩一. 1971. 家族の周期と村落構造—タイ国東北部の稲作農村—.『ソシオロジ』17(1/2).

S-23 本岡　武. 1971. 熱帯農学の教育・研究にかんする国際協力.『熱帯農業の教育と研究』

S-24 坪内　良博. 1971. 日本農民の伝統的な離婚傾向と親族構造とのかかわりについて.『ソシオロジ』17(1/2).

S-25 大野　徹. 1971. パガン，ピンヤ，インワ時代のビルマ人仏教徒の呪詛.『東南アジア研究』9(2).

S-26* 石井　米雄. 1971. タイ仏教の構造.『アジア経済』12(12).

S-27 大野　徹. 1971. パガン，ピンヤ，インワ時代のビルマの社会.『東南アジア研究』9(3).

S-28 吉原久仁夫. 1971. フィリピン経済とナショナリズム.『東南アジア研究』9(3).

S-29* 安場　保吉. 1971. 二重構造.『現代の経済学の展開』

S-30* YOSHIHARA, Kunio. 1971. A Study of Philippine Manufacturing Corporations. *The Developing Economies* 9(3).

S-31 YOSHIHARA, Kunio. 1972. The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio. *Hitotsubashi Journal of Economics* 12(2).

S-32 YOSHIHARA, Kunio; and RATCLIFFE, Tait. 1972. Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65. *The Economic Studies Quarterly* 23(1).

S-33 YASUBA, Yasukichi. 1972-73. Modern Economists' Views on the Japanese Economy—A Survey. *Japanese Economic Studies* 1(2).

S-34 矢野　暢. 1973. 多極化と「従属体系」状況の変容—地域主義との関連—.『国際政治』48.

S-35 YANO, Toru. 1972. Some Characteristics of Political Leadership in Thailand: Sarit Thanarat's "Revolutionary Party Edicts." *The Developing Economies* 10(3).

S-36 江崎　光男; JORGENSON, D. W. 1973. マクロ生産性変化の測定1951—1968年.『日本経済の長

期分析—成長・構造・波動—』

S-37 ICHIMURA, Shinichi; FUKUCHI, Takao; and SAKASHITA, Noboru. 1972. The Present State of Research on Urbanization and its Effect on Cultural Changes in ASPAC Member Countries—A Bibliographic Survey—. *Asian Pacific Quarterly of Cultural and Social Affairs* 4(1).

S-38* ICHIMURA, Shinichi. 1974. Japanese Entrepreneurship in the Early Stage of Economic Development. *Asian Profile* 2(1).

S-39* 水野　浩一. 1975. タイ人の家族と宗教.『アジア文化』11(4).

S-40* MAEDA, Narifumi. 1975. Family Circle, Community, and Nation in Malaysia. *Current Anthropology* 16(1).

S-41* YANO, Toru. 1974. The Political Elite Cycle in Thailand. *The Developing Economies* 12(4).

S-42* EZAKI, Mitsuo. 1975. Econometric Growth Model and Forecasting Simulations for Postwar Japan: 1952-1980. *The Economic Studies Quarterly* 26(3).

S-43* YASUBA, Yasukichi. 1975. Anatomy of the Debate on Japanese Capitalism. *The Journal of Japanese Studies* 2(1).

S-44* ICHIMURA, Shinichi. 1975. Interdisciplinary Research and Area Studies. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).

S-45* ISHII, Yoneo. 1975. A Note on Buddhistic Millenarian Revolts in Northeastern Siam. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).

S-46* MIZUNO, Koichi. 1975. Thai Pattern of Social Organization: Note on a Comparative Study. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2)

S-47* TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1975. Marriage and Divorce among Malay Peasants in Kelantan. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).

S-48* EZAKI, Mitsuo. 1975. On the Two-Gap Analysis of Foreign Aid. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).

S-49* TSUCHIYA, Kenji. 1975. The Taman Siswa Movement—Its Early Eight Years and Javanese Background. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).

S-50* MAEDA, Narifumi. 1975. The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).

S-51* 水野　浩一. 1976. 家族・親族集団の国際比較—タイ国と日本—.『社会学評論』26(3).

S-52 YASUBA, Yasukichi. 1976. The Evolution of Dualistic Wage Structure. *Japanese Industrialization and its Social Consequences.*

S-53* TSUCHIYA, Kenji. 1976. Gerakan Taman Siswa—Delapan Tahun Pertama dan Latar Belakang Jawa Taman Siswa. *Indonesia: Masalah Dan Peristiwa Bunga Rampai.*

S-54* YASUBA, Yasukichi. 1978. Freight Rates and Productivity in Ocean Transportation for Japan, 1875-1943. *Explorations in Economic History* 15(1).

S-55* EZAKI, Mitsuo. 1976. Economic Theory and Social Accounting System. *The Journal of Philippine Development* 3(2).

S-56 YOSHIHARA, Kunio. 1978. Determinants of Japanese Investment in South-East Asia.

International Social Science Journal 30(2).

S-57 YASUBA, Yasukichi. 1978. Imported Inflation and the Upward Revaluation of the Yen, 1965-1974. *Breadth and Depth in Economics.*

S-58 MIZUNO, Koichi. 1979. Urbanization and Rural Change—Tambon Om Noi. *Geography and the Environment in Southeast Asia.*

S-59 YASUBA, Yasukichi. 1979. Policy-Induced Growth and the Older Generation. *Japanese Economic Studies* 7(3).

S-60 ICHIMURA, Shinichi. 1980. Japan and Southeast Asia. *Asian Survey* 20(7).

S-61 ICHIMURA, Shinichi. 1981. Economic Growth, Savings and Housing Finance in Japan. *Journal of Economic Studies* 8(3).

S-62 ICHIMURA, Shinichi. 1981. Japanese Firms in Asia. *Japanese Economic Studies* 10(1).

S-63 ICHIMURA, Shinichi. 1982. The Global Energy Problems and Japanese Crisis Management Policies. *Economic Theory of Natural Resources.*

S-64* DRABICKI, John Z.; and TAKAYAMA, Akira. 1982. Minimum Wage Regulation and Economic Growth. *Journal of Economics and Business* 34.

S-65* ICHIMURA, Shinichi. 1982. Debt Accumulation, Oil Crisis and International Financing. *International Financing of Economic Development.*

S-66 ICHIMURA, Shinichi. 1983. The Critical Problems of Developing Countries. *Interdependence of International Economy and Politics.*

S-67 YOSHIHARA, Kunio. 1984. Indigenous Entrepreneurs in the ASEAN Countries. *The Singapore Economic Review* 29(2).

自然科学

N-1* FUKUI, Hayao; and TAKAHASHI, Eiichi. 1969. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (II)—Yield Components Survey in the Saraburi-Ayutthaya Area, 1967—.『東南アジア研究』7(2).

N-2 TAKAYA, Yoshikazu. 1969. Topographical Analysis of the Southern Basin of the Central Plain, Thailand.『東南アジア研究』7(3).

N-3 FUKUI, Hayao; and TAKAHASHI, Eiichi. 1969. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (III)—A Review of Rice Experiments in Thailand—.『東南アジア研究』7(3).

N-4* TAKAYA, Yoshikazu. 1969. Topographical Control over the Agriculture in the Mae Nam Delta. *JARQ: Japan Agricultural Research Quarterly* 4(4).

N-5 HATTORI, Tomoo. 1970. Some Properties of Soils and Substrata in the Lampang Basin.『東南アジア研究』7(4).

N-6* WATABE, Tadayo; AKIHAMA, Tomoya; and KINOSHITA, Osamu. 1970. The Alteration of Cultivated Rice in Thailand and Cambodia.『東南アジア研究』8(1).

N-7* FUKUI, Hayao; and TAKAHASHI, Eiichi. 1970. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (IV)—Response to Nitrogen of Some Native Varieties under Field Conditions—.『東南アジア研究』8(1).

N- 8 SMITINAND, Tem ; SHIMIZU, Tatemi ; KOYAMA, Hiroshige ; and FUKUOKA, Nobuyuki. 1970. Contributions to the Flora of Southeast Asia—I. Taxonomy and Phytogeography of Some Temperate Species in Thailand—.『東南アジア研究』8(2).

N- 9 SHIMIZU, Tatemi. 1970. Contributions to the Flora of Southeast Asia—II. *Impatiens* of Thailand and Malaya—.『東南アジア研究』8(2).

N-10 FUKUOKA, Nobuyuki. 1970. Contributions to the Flora of Southeast Asia—III. *Hedyotis* (Rubiaceae) of Thailand—.『東南アジア研究』8(3).

N-11 AKIHAMA, Tomoya ; and WATABE, Tadayo. 1970. Geographical Distribution and Ecotypic Differentiation of Wild Rice in Thailand.『東南アジア研究』8(3).

N-12 MURATA, Gen. 1971. Contributions to the Flora of Southeast Asia—IV. A List of Labiatae Known from Thailand—.『東南アジア研究』8(4).

N-13 FUKUI, Hayao ; and TAKAHASHI, Eiichi. 1971. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (V)—Possibility of Higher Yield viewed from the Yield Component Surveys in Farmers' Fields—.『東南アジア研究』8(4).

N-14 TAKAYA, Yoshikazu. 1971. Two Brackish Clay Beds along the Chao Phraya River of Thailand.『東南アジア研究』9(1).

N-15 KYUMA, Kazutake. 1971. Climate of South and Southeast Asia according to Thornthwaite's Classification Scheme.『東南アジア研究』9(1).

N-16 OHWI, Jisaburo. 1971. Contributions to the Flora of Southeast Asia—V. Gramineae and Cyperaceae of Thailand—.『東南アジア研究』9(2).

N-17 HORIUCHI, Takatsugu ; SAMY, S. J. ; and PHANG, C. C. 1971. Grain Loss during Hand Harvesting in the Rice Cultivation in Kedah, West Malaysia.『東南アジア研究』9(2).

N-18* KAIDA, Yoshihiro. 1971. An Analysis of the Effect of Environmental Factors on Paddy Rice Yields—A Case Study from the Northern Region of the Greater Chao Phraya Project—.『東南アジア研究』9(2).

N-19 FUKUI, Hayao. 1971. Environmental Determinants Affecting the Potential Dissemination of High Yielding Varieties of Rice—A Case Study of the Chao Phraya River Basin—.『東南アジア研究』9(3).

N-20 TAKAYA, Yoshikazu. 1971. Physiography of Rice Land in the Chao Phraya Basin of Thailand.『東南アジア研究』9(3).

N-21 HATTORI, Tomoo. 1971. The Quaternary Stratigraphy in the Northern Basin of the Central Plain, Thailand.『東南アジア研究』9(3).

N-22* KYUMA, Kazutake. 1972. Numerical Classification of the Climate of South and Southeast Asia.『東南アジア研究』9(4).

N-23 HATTORI, Tomoo. 1972. Some Properties of Brackish Sediments along the Chao Phraya River of Thailand.『東南アジア研究』9(4).

N-24* KYUMA, Kazutake ; and KAWAGUCHI, Keizaburo. 1973. A Method of Fertility Evaluation for Paddy Soils. *Soil Science and Plant Nutrition* 19(1).

N-25* TAKAYA, Yoshikazu. 1975. An Ecological Interpretation of Thai History. *Journal of Southeast*

Asian Studies 6(2).

N-26 高谷　好一；友杉　　孝. 1976. 東北タイの水田.『アジア経済』13(9), 14(3), 15(2), 15(11),『東南アジア研究』10(1).

N-27 TAKAYA, Yoshikazu. 1977. The Agriculture of Nepal : Its ecology and historical development. *Changing Aspects of Modern Nepal.*

N-28* KYUMA, Kazutake ; SUH, Yoon-Soo ; and KAWAGUCHI, Keizaburo. 1977. A Method of Capability Evaluation for Upland Soils. *Soil Science and Plant Nutrition* 23.

5. ディスカッション・ペーパー（*印は在庫なし）

No. 1* YOSHIHARA, Kunio. 1969. *The Application of Alternative Demand Models to the Japanese Expenditure Pattern.*

No. 2* YOSHIHARA, Kunio. 1969. *The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio.*

No. 3* YOSHIHARA, Kunio. 1969. *A Theory of Cost of Living and Real Income.*

No. 4* ICHIMURA, Shinichi *et al.* 1969. *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy : Chapter III—Detailed Discussion of the Model—.*

No. 5* YOSHIHARA, Kunio *et al.* 1969. *The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index.*

No. 6* ICHIMURA, Shinichi *et al.* 1969. *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy : Chapter II—Outline of the Osaka Model—.*

No. 7 ICHIMURA, Shinichi *et al.* 1969. *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy : Chapter VI—The Compilation of Data—.*

No. 8* YOSHIHARA, Kunio ; and RATCLIFFE, Tait. 1970. *Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65.*

No. 9* ICHIMURA, Shinichi. 1970. *The Challenge of Rising Sun.*

No.10* EZAKI, Mitsuo ; and JORGENSON, Dale W. 1971. *The Measurement of Productivity Change in the Japanese Economy, 1952-1966.*

No.11* ISHII, Yoneo. 1971. *Ecclesiastical Examination in Thailand.*

No.12* ～ No.22* MIZUNO, Koichi. 1971. *Social System of Don Daeng Village : a Community Study in Northeast Thailand.*

No.23* MAEDA, Narifumi. 1971. *Economic Activities among the Orang Hulu.*

No.24* MAEDA, Narifumi. 1971. *Authority and Leadership among the Orang Hulu.*

No.25* EZAKI, Mitsuo. 1971. *A Note on the Measurement of Productivity Change.*

No.26* ～ No.29* MOTOOKA, Takeshi. 1971. *Agricultural Development in Thailand.*

No.30* MIZUNO, Koichi. 1971. *For a Comparative Study on "Industrialization and Rural Communities"* (with an Illustration of Rural Japan).

No.31* YASUBA, Yasukichi. 1971. *Revaluation of Yen—A Strategy for Equitable and Realistic*

Revaluation—.

No.32* MOTOOKA, Takeshi. 1971. *Responsibility of Agricultural Education in Southeast Asian Development.*

No.33* TSUJII, Hiroshi. 1971. *An Econometric Analysis of the Effects of Technological Improvements in Rice Production on Rice Trade among Thailand, Indonesia and the World.*

No.34* KYUMA, Kazutake ; and KAWAGUCHI, Keizaburo. 1971. *Fertility Evaluation of Paddy Soils in South and Southeast Asia—First Approximation : Chemical Potentiality Rating—.*

No.35* ICHIMURA, Shinichi ; and BACHATIAR, Harsja W. 1972. *The First Preliminary Report of the Economic Survey of South Sumatra—The Pilot Survey and its Findings—.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 1.

No.36 ICHIMURA, Shinichi ; and BACHATIAR, Harsja W. 1972. *A Summary of Gross Provincial Product Estimation for South Sumatra Province, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 2.

No.37* HUTABARAT, Panangaran. 1972. *The Estimation of Value Added in Finance Sector of South Sumatra, Indonesia, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 3.

No.38* MIZUNO, Koichi. 1972. *Japanese Scholarship on Southeast Asian Villages—A Socioanthropological View—.*

No.39* MOTOOKA, Takeshi. 1972. *The Role of Rural Institutions, Especially of Farmer's Organization in Asian Rural Development.*

No.40* KYUMA, Kazutake ; and KAWAGUCHI, Keizaburo. 1972. *Fertility Evaluation of Paddy Soils in South and Southeast Asia—Second Approximation : Evaluation of Three Independent Constituents of Soil Fertility.*

No.41* LUTHAN, Julian. 1972. *Value Added of The Mining and Quarrying Industries in South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 4.

No.42* THEE Kian Wie. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of Commerce in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 5.

No.43* HUTABARAT, Panangaran. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of Electricity, Gas and Water Supply and of Ownership of Dwelling in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 6.

No.44* SIREGAR, Muchtarudin ; and BATUBARA, Januar. 1972. *The Estimation of Value Added of the Transport and Communications Sector in South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 7.

No.45* TAMBA, Jonker Leonard. 1972. *Estimation of Regional Income Originating from the Government Sector in South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 8.

No.46* MOTOOKA, Takeshi. 1972. *Basic Problems of Industrial Development in Relation to the Agricultural Sector in Southeast Asia.*

No.47* MOTOOKA, Takeshi. 1972. *Some Observations on the Green Revolution in India : A Brief Report of the Invitation Trip of Indian Government in November and December of 1971.*

No.48 EZAKI, Mitsuo. 1972. *Two Notes : I. On the Theory of National Accounting. II. Quality*

Indexes of Capital, Labor and Output in the Measurement of Productivity Change.

No.49* ICHIMURA, Shinichi. 1972. *Institutional and Methodological Problems on Multidisciplinary Research in Asian Area Studies.*

No.50* LUTHAN, Julian. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of the Manufacturing and Construction Industries in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 9.

No.51* BASIR, Kimin. 1972. *The Service Sector of South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 10.

No.52* THEE Kian Wie. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of the Agricultural Sector in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 11.

No.53* ISHII, Yoneo; AKAGI, Osamu; and ENDO, Noriko. 1972. *A Glossarial Index of the Sukhothai Inscriptions.*

No.54* KAIDA, Yoshihiro. 1972. *Mathematical Models on the Optimization of the Amounts and the Scheduling of Intraseasonal Irrigation, and Cropping Patterns.*

No.55* THEE Kian Wie. 1972. *Report on the Main Field Survey.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 12 (with Statistical Appendix).

No.56 THEE Kian Wie. 1972. *Revised Summary of Gross Provincial Product Estimation for the Province of South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 13.

No.57 THEE Kien Wie. 1973. *South Sumatra's External Trade in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 14.

No.58* EZAKI, Mitsuo. 1972. *The Two-Gap Analysis of Foreign Aid: A Comment on the Chenery-Strout Model.*

No.59 THEE Kian Wie. 1973. *An Estimation of Private Consumption in South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 15.

No.60* TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1973. *A Collection of Socio-Economic Data of a Malay Village in Kelantan.*

No.61* ICHIMURA, Shinichi. 1973. *Interdisciplinary Research and Area Studies.*

No.62* ICHIMURA, Shinichi; and YANO, Toru. 1973. *Books on Japan—An Annorted Bibliography—.*

No.63* ICHIMURA, Shinichi. 1973. *Japanese Entrepreneurship in the Early Stage of Economic Development.*

No.64* KOENTJANINGRAT. 1973. *Village Life South of Jakarta—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia".*

No.65* SAKDEJAYONT, Yut. 1973. *Village Life Near Bangkok—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia".*

No.66* ICHIMURA, Shinichi. 1973. *Japan's Stake in Asia.*

No.67 TAMBA, Jonker Leonard. 1973. *The Estimation of Capital Formation in South Sumatra, 1970.*

No.68* YASUBA, Yasukichi. 1973. *The Evolution of Dualistic Wage Structure.*

No.69* CUYUGAN, R. Santos; and BONIFACIO, M. Flores. 1973. *Rural Philippine Communities:*

A Case Study of the Impact of Industrialization—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia".

No.70* MAEDA, Narifumi. 1974. *Abstract—The Changing Peasant World in a Melaka Village: Islam and Democracy in the Malay Tradition—.*

No.71* EZAKI, Mitsuo. 1974. *A Complete System of Private Accounts.*

No.72* EZAKI, Mitsuo. 1974. *An Econometric Model and Simulation Analyses for Postwar Japan's Aggregate Economy, 1952-1980.*

No.73* MAEDA, Narifumi. 1974. *The Aftereffects of Haji and Kaan Buat.*

No.74* ICHIMURA, Shinichi. 1974. *Japan: The Rising Sun or the Sinking Ship—The Energy Problem and the Food Shortage—.*

No.75* TSUJII, Hiroshi. 1974. *An Econometric Model of the International Rice Market and Analyses of the National Rice Policies in Thailand, Indonesia, Japan, and the United States.*

No.76* ISHII, Yoneo; AKAGI, Osamu; and TANABE, Shigeharu. 1974. *An Index of Officials in Traditional Thai Governments, Volume I—Part 1: The Law of Civil Hierarchy and the Law Military and Provincial Hierarchies.*

No.77 MOKHZANI, B. A. R. 1974. *Gombak: A Malay Village East of Kuala Lumpur—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia"—.*

No.78* YOSHIHARA, Kunio; and ADACHI, Kyoichiro. 1975. *Japanese Direct Industrial Investment in Korea, Hong Kong, Singapore and Taiwan.*

No.79* TSUJII, Hiroshi. 1975. *A Quantitative Model of the World Rice Market and Analyses of the National Rice Policies with Special Reference to Thailand, Indonesia, Japan and the United States.*

No.80* YANO, Toru. 1975. *Southeast Asia: A Kaleidoscope of Japanese Images.*

No.81* ICHIMURA, Shinichi; and YANO, Toru. 1975. *The Future Pattern of Japanese Economic and Political Relations with Southeast Asia.*

No.82* DIFFLOTH, Gérard. 1976. *Apprasial of Benedict's View on Austroasiatic and Austro-Thai Relations.*

No.83* YANO, Toru. 1975. *The Greater East Asia Co-prosperity Sphere: Setting the Stage for the Cold War in Southeast Asia.*

No.84* YANO, Toru. 1975. *ASEAN in the New Setting of Asia: A Japanese View.*

No.85 KYUMA, Kazutake. 1976. *Paddy Soils in the Mekong Delta of Vietnam.*

No.86* NISHIMURA, Hiroyuki. 1976. *Technical and Soci-Economic Constraints on Farm Development —A Review of the Kinds and Sources of Farmers' Information.*

No.87* TSUJII, Hiroshi. 1976. *Rice Economy and Rice Policy of South Vietnam, Economic and Statistical Analysis.*

No.88* DIFFLOTH, Gérard. 1976. *Proto-Mon-Khmer Final Spirants.*

No.89* TSUJII, Hiroshi. 1976. *Effect of Climatic Fluctuation on Rice Production in Continental Southeast Asia—A Proposal of a Multidisciplinary Approach—.*

No.90 EZAKI, Mitsuo. 1977. *Growth Accounting of the Philippines: A Comparative Study of the*

1965 and 1969 Input-Output Tables.

No.91 DIFFLOTH, Gérard. 1976. *Translation of a Part of A. A. Moskalev's "Grammar of the Chuang Language".*

No.92* YAMAKAGE, Susumu. 1977. *Interdependence of the ASEAN Region—The Transaction Analysis of Trade Flows, 1950, 1960, 1970—.*

No.93* YAMAKAGE, Susumu. 1977. *Extra-Regional Dependence of the ASEAN Region —The Transaction Analysis of Trade Flows, 1950, 1960, 1970—.*

No.94* EZAKI, Mitsuo. 1977. *Growth Accounting of the Philippines : The Demand-for Output Side.*

No.95* TANABE, Shigeharu. 1977. *Historical Geography of the Canal System in the Chao Phraya Delta from the Ayutthaya Period to the Fourth Reign of the Ratanakosin Dynasty.*

No 96* KYUMA, Kazutake *et al.* 1978. *A Study of Padi Cultivation in the State of Sarawak.* KYOTO UNIVERSITY TEAM.

No.97* KYUMA, Kazutake. 1978. *Paddy Soils in the State of Sarawak, East Malaysia.*

No.98* EZAKI, Mitsuo. 1978. *Growth Accounting of Postwar Japan : The Input Side.*

No.99* TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1978. *Indonesians at Work through Japanese Eyes.*

No.100* FUKUI, Hayao. 1978. *Climate Variability and Agriculture—The Humid Tropics—.*

No.101* EZAKI, Mitsuo. 1978. *Linking National Econometric Models of Japan, U.S.A., and the East and Southeast Asian Countries : A Pilot Study.*

No.102 ICHIMURA, Shinichi. 1978. *Argentine Economy and the World Food Market, Especially the Asian Market Ten Year's Perspectives.*

No.103 FURUKAWA, Hisao. 1979. *Manual for Field Soil Records.*

No.104* YASUBA, Yasukichi. 1979. *Another Look at the Tokugawa Heritage with Special Reference to Social Conditions.*

No.105 YAMAKAGE, Susumu. 1979. *Interdependence and Conflict : A Two-Actor Model of a Transaction with an Application to Japanese-Southeast Asian Relations.*

No.106 ICHIMURA, Shinichi. 1979. *Japanese Industrial Restructuring Policies, 1945-1979.*

No.107* EZAKI, Mitsuo. 1979. *The Bank of Thailand Model and its Application to Policy Simulations.*

No.108 ICHIMURA, Shinichi. 1979. *Southeast and East Asia in 1980.*

No.109 YAMAKAGE, Susumu. 1980. *ASEAN's Political Cooperation, 1967-77 : A Performance Analysis of Foreign Ministers' Meetings.*

No.110 ICHIMURA, Shinichi. 1980. *Institutional Factors and the Government Policies for Appropriate Technologies in Southeast Asia—A Framework of Empirical Study—.*

No.111 ICHIMURA, Shinichi. 1981. *The Grobal Energy Problems and Japanese Crisis Management Policies.*

No.112 ICHIMURA, Shinichi. 1981. *Economic Growth, Savings and Housing Financing in Japan.*

No.113 ICHIMURA, Shinichi. 1982. *Moving up the Market : Transformation of Industrial Structure and Economic Policies.*

No.114 ICHIMURA, Shinichi. 1982. *US—Japan Economic Problems.*

No.115 GINES, Hermenegildo C. 1982. *Paddy Land Suitability Classification in relation to Its*

Potential for Multiple Cropping Systems: A Case Study of the Central Plain of Luzon.

No.116 EZAKI, Mitsuo. 1982. *An Econometric Model of Indonesia with Particular Reference to the Monetary Sector: 1970–1980.*

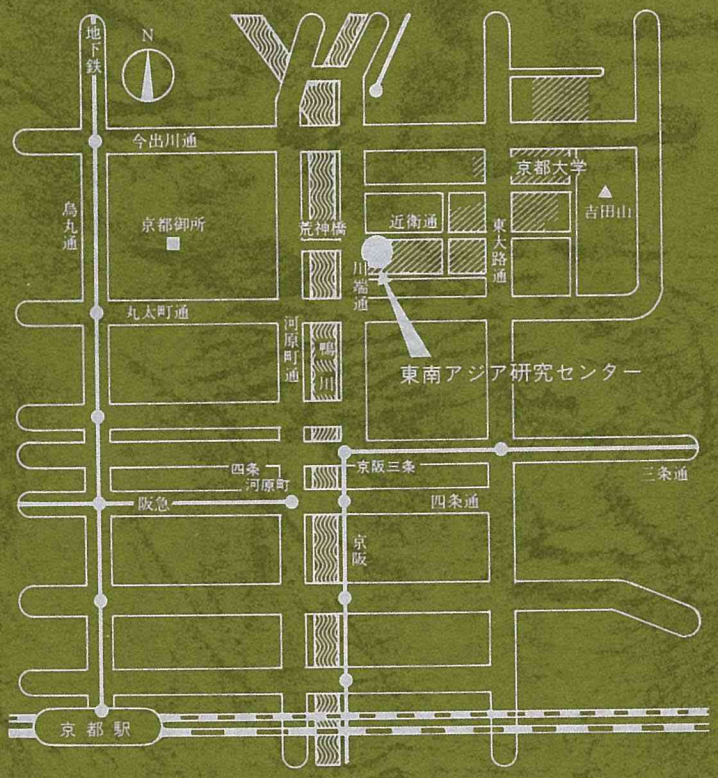
No.117 EZAKI, Mitsuo. 1983. *Japan and the Southeast Asia: A Quantitative Appraisal of Their Economic Relations.*

No.118 EZAKI, Mitsuo; SHIBAYAMA, Mamoru; and ICHIMURA, Shinichi. 1984. *An Econometric Link System for the East and Southeast Asian Countries, Japan and the United States.*

No.119* ICHIMURA, Shinichi; and EZAKI, Mitsuo. 1985. *Economic Growth, Interdependence and Rivalry in East Asia.*

No.120 EZAKI, Mitsuo. 1985. *A Computable General Equilibrium Model of the Japanese Economy.*

案内地図



「京都駅前」から市バス4、14、特17、または205に乗車。
河原町通「荒神口」で下車、東へ徒歩5分。

京都大学東南アジア研究センター
〒606 京都市左京区吉田下阿達町46　電話(075)751-2111 内線7302